仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調查(1)概要報告書

2005年1月

仙台市教育委員会 仙台市交通局

仙台市文化財調查報告書289集

仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(1)概要報告書

2005年1月

仙台市教育委員会 仙台市交通局

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろから多大な御協力を賜り、ま ことに感謝にたえません。

さて、当市では、暮らしやすく環境にやさしい新しい都市づくりを進めるため、軌道系交通機関を基軸としたまとまりのある集約型の市街地形成への転換を図っており、その主要な施策として、高速鉄道東西線プロジェクトを進めております。今回の発掘調査はそれに伴う確認・試掘調査です。調査は計画路線のなかで川内地区を中心に行われ、近世を主として貴重な成果が得られました。

先人の残した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ次の世代に継承していくことは、現代に生きる私たちの大きな責務であると考えております。 また、文化財の保護につきましては、地域の皆様の深い御理解と御協力が必要となります。

その意味でも、今回の調査成果が地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、多くの方々に活用されれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行に際しまして、御協力くださいました皆様に深く感謝申し上げる次第です。

平成 17 年 1 月

仙台市教育委員会

教育長 阿 部 芳 吉

例 言

- 1. 本書は、高速鉄道東西線建設事業に伴い実施された埋蔵文化財の確認・試掘調査の概要報告書である。
- 2. 発掘調査は、株式会社第三開発が仙台市教育委員会の委託を受け、仙台市教育委員会の指導監督のもとに行った。
- 3. 本書の作成・編集は、仙台市教育委員会文化財課 斎野裕彦、株式会社第三開発 澁谷正信・北原正範が行った。
- 4. 本書の執筆は、斎野裕彦の責任と指導のもとに、株式会社第三開発が行った。

株式会社第三開発の分担

- I 2、Ⅲ、V~Ⅶ……北原正範
- II、IV、VII ·············· 澁谷正信
- 5. 調査および報告書作成にあたり、下記デジタル機器を使用し、CD 入稿とした。 測量・遺構計測 「リプログラフ」(株式会社こうそく)、遺構図版作成・遺物実測図作成・編集「アドビ CS」(adobe 社)「エクセル」(MS 社)、ApplePowerMacG5
- 6. 本調査の実施および報告書の作成に際し、次の諸氏・機関よりご指導、ご教示、また、さまざまなご協力を 賜った。記して敬意を表す次第である(敬称略順不同)。

松本秀明(東北大学大学院理学研究科) 藤沢 敦(東北大学埋蔵文化財調査研究センター) 佐藤 洋(仙台市博物館) 渋江芳浩(日本考古学協会員) 黒尾和久(日本考古学協会員) 秋岡礼子(特定非営利活動法人 歴史・環境・まちづくり) 東北大学

7. 発掘調査に関わる一切の資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡例

- 1. 本書の土色は、新版標準土色帳(農林水産省農林水産技術会議事務局 1998 版)に準拠している。
- 2. 図中の座標値は、日本測地系座標を使用した。
- 3. 本文図版等で使用した方位は、すべて真北で統一してある。
- 4. 標高値は、海抜高度(T.P)を示している。
- 5. 遺構図は、原則として 1/80 掲載とした。その他の図面については、各図のスケールを参照されたい。
- 6. 遺構名の略称として SD: 溝跡・溝状遺構 SE: 井戸 SK: 土坑 P: ピット SX: 性格不明遺構を使用した。
- 7. 遺構図において、____ は攪乱の範囲、「S」は礫を示している。
- 8. 遺物の登録・整理および報告書での表示には、以下の分類と略号を使用した。 A: 縄文土器 F: 丸瓦・軒丸瓦 H: その他の瓦 I: 陶器・炻器他 J: 磁器 K: 石器
- 9. 遺物実測図は原則として1/3で、石器は2/3で掲載した。
- 10. 遺物実測図において、外形線・中心線・区画線は実線で、稜線は破線で、釉薬など表面装飾の境界線は一点鎖線(施 和部・無釉部の境界)ないし二点鎖線(複数種の釉薬間の境界)で表した。中心線が一点鎖線のものは、図 上復元実測図である。破損部は、推定復元状態を実線で表した。

本文目次

Ι.	. 調了	至の概要	1
	1	調査の経緯	1
	2	調査要項	2
Π.	. 立均	也と歴史的環境	2
	1	A 区	2
	2	B 区 ···································	2
	3	C 🗵	3
	4	D 🗵	3
Ш.	. 調査	至の方法と経過	4
	1	A 区	4
	2	B 区	4
	3	C 🗵	5
	4	D 🗵	5
IV.	ΑÞ	〔の調査成果	6
	1	調査区の設定および基本層序	6
	2	検出された遺構と遺物	7
	3	まとめ	18
V.	ВØ	の調査成果	19
	1	調査区の設定および基本層序	19
	2	検出された遺構と遺物	20
	3	まとめ	24
VI.	. C 🗵		25
	1	調査区の設定および基本層序	25
	2	検出された遺構と遺物	26
	3	まとめ	33
VII.	D⊵	【の調査成果	34
	1	調査区の設定および基本層序	34
	2	検出された遺構と遺物	35
	3	まとめ	42
VIII .	. 総括	£	43

挿 図 目 次

調査区位置図	1	第 21 図	B区 No.5 トレンチ半面図・柱状図	23
絵図・古地図における調査区の位置	3	第 22 図	B 区 No.6 トレンチ平面図・柱状図	24
A 区トレンチ配置図・基本層序柱状図	6	第 23 図	B 区全体平面図 ······	24
A区 No.1 トレンチ平面図・断面図・柱状図	8	第 24 図	C 区トレンチ配置図・基本層序柱状図	25
A 区 No.1 トレンチ出土遺物(1)	8	第 25 図	C 区 No.1 トレンチ平面図・柱状図	27
A 区 No.1 トレンチ出土遺物 (2)	9	第 26 図	C 区 No.1 トレンチ出土遺物	27
A 区 No.2 トレンチ平面図・柱状図	10	第 27 図	C 区 No.2 トレンチ平面図・	
A 区 No.3 トレンチ平面図・柱状図	11		柱状図・P1 断面図	28
A 区 No.3 トレンチ出土遺物	12	第 28 図	C 区 No.3 トレンチ平面図・柱状図	29
A 区 No.4 トレンチ平面図・柱状図	13	第 29 図	C 区 No.4 トレンチ平面図・柱状図	30
A 区 No.4 トレンチ出土遺物	14	第 30 図	C 区 No.5 トレンチ平面図・北壁断面図	31
A 区 No.5 トレンチ平面図・断面図	15	第 31 図	C 区 No.5 トレンチ出土遺物	32
A 区 No.5 トレンチ出土遺物	16	第 32 図	C 区全体平面図	33
A 区 No.6 トレンチ平面図・柱状図	17	第 33 図	D区調査区配置図	34
A 区全体平面図	18	第 34 図	D区平面図・北壁断面図・東西ベルト断面図	36
B 区トレンチ配置図・基本層序柱状図	19	第 35 図	D区 SX2・SX3・P1 ~ 3 断面図	37
B 区 No.1 トレンチ平面図・柱状略図	20	第 36 図	D区出土遺物(1) ······	38
B 区 No.2 トレンチ平面図・柱状図	21	第 37 図	D区出土遺物 (2) ······	39
B 区 No.3 トレンチ平面図・柱状図	21	第 38 図	D区出土遺物 (3)	40
B 区 No.4 トレンチ平面図・柱状図	22	第 39 図	D区全体平面図	42
	総図・古地図における調査区の位置 A 区トレンチ配置図・基本層序柱状図 A 区 No.1 トレンチ平面図・断面図・柱状図 A 区 No.1 トレンチ出土遺物 (1) A 区 No.2 トレンチ出土遺物 (2) A 区 No.3 トレンチ平面図・柱状図 A 区 No.3 トレンチ平面図・柱状図 A 区 No.4 トレンチ出土遺物 A 区 No.5 トレンチ平面図・様状図 A 区 No.5 トレンチ出土遺物 A 区 No.5 トレンチ平面図・様状図 A 区 No.5 トレンチ平面図・様状図 B 区 No.1 トレンチ平面図・桂状図 B 区 No.1 トレンチ平面図・桂状図 B 区 No.1 トレンチ平面図・柱状図 B 区 No.2 トレンチ平面図・柱状図	総図・古地図における調査区の位置 3 A 区トレンチ配置図・基本層序柱状図 6 A 区 No.1 トレンチ平面図・断面図・柱状図 8 A 区 No.1 トレンチ出土遺物 (1) 8 A 区 No.1 トレンチ出土遺物 (2) 9 A 区 No.2 トレンチ平面図・柱状図 10 A 区 No.3 トレンチ平面図・柱状図 11 A 区 No.3 トレンチエ土遺物 12 A 区 No.4 トレンチエ土遺物 12 A 区 No.5 トレンチエー遺物 14 A 区 No.5 トレンチエー遺物 15 A 区 No.6 トレンチエー遺物 16 A 区 No.6 トレンチエー遺物 17 A 区全体平面図 17 A 区全体平面図 18 B 区 トレンチ配置図・基本層序柱状図 19 B 区 No.1 トレンチ平面図・柱状図 20 B 区 No.2 トレンチ平面図・柱状図 21 B 区 No.3 トレンチ平面図・柱状図 21	絵図・古地図における調査区の位置 3 第 22 図 A 区トレンチ配置図・基本層序柱状図 6 第 23 図 A 区 No.1 トレンチ平面図・断面図・柱状図 8 第 24 図 A 区 No.1 トレンチ出土遺物 (1) 8 第 25 図 A 区 No.1 トレンチ出土遺物 (2) 9 第 26 図 A 区 No.2 トレンチ平面図・柱状図 10 第 27 図 A 区 No.3 トレンチ平面図・柱状図 11 A 区 No.3 トレンチ出土遺物 12 第 28 図 A 区 No.4 トレンチ出土遺物 12 第 30 図 A 区 No.4 トレンチ出土遺物 14 第 30 図 A 区 No.5 トレンチ平面図・柱状図 15 第 31 図 A 区 No.5 トレンチ出土遺物 16 第 32 図 A 区 No.6 トレンチ平面図・柱状図 17 第 33 図 A 区 No.6 トレンチ平面図・柱状図 17 第 33 図 A 区 No.6 トレンチ平面図・柱状図 17 第 33 図 A 区 No.1 トレンチ平面図・柱状図 17 第 33 図 A 区 No.1 トレンチ平面図・柱状図 19 第 35 図 B 区 No.1 トレンチ平面図・柱状略図 20 第 36 図 B 区 No.2 トレンチ平面図・柱状図 21 第 37 図 B 区 No.3 トレンチ平面図・柱状図 21 第 37 図 B 区 No.3 トレンチ平面図・柱状図 21 第 38 図 B 区 No.3 トレンチ平面図・柱状図 21 第 38 図 B 区 No.3 トレンチ平面図・柱状図 21 第 38 図 B S No.3 トレンチ平面図・柱状図 21 第 38 図 S S S S S S S S S S S S S S S S S S	絵図・古地図における調査区の位置 3 第 22 図 B 区 No.6トレンチ平面図・柱状図 第 23 図 B 区全体平面図 A 区 No.1トレンチ甲面図・拵木図 8 第 24 図 C 区トレンチ配置図・基本層序柱状図 A 区 No.1トレンチ甲面図・拵木図 8 第 24 図 C 区 No.1トレンチ甲面図・柱状図 A 区 No.1トレンチ出土遺物 (1) 8 第 25 図 C 区 No.1トレンチ甲面図・柱状図 A 区 No.1トレンチ出土遺物 (2) 9 第 26 図 C 区 No.1トレンチエ土遺物 4 区 No.2トレンチ甲面図・柱状図 10 第 27 図 C 区 No.2トレンチ甲面図・柱状図 A 区 No.3トレンチ甲面図・柱状図 11 柱状図・P1 断面図 4 柱状図・P1 断面図 A 区 No.3トレンチ甲面図・柱状図 13 第 29 図 C 区 No.4トレンチ甲面図・柱状図 3 第 29 図 C 区 No.5トレンチ甲面図・柱状図 4 第 30 図 C 区 No.5トレンチ甲面図・柱状図 5 第 31 図 C 区 No.5トレンチ甲面図・柱状図 5 第 31 図 C 区 No.5トレンチ甲面図・北壁断面図 A 区 No.5トレンチ田土遺物 16 第 32 図 C 区 No.5トレンチ出土遺物 16 第 32 図 C 区全体平面図 A 区 No.6トレンチ甲面図・柱状図 17 第 33 図 D 区調査区配置図 5 第 34 図 D 区 平面図・北壁断面図 東西ベルト断面図 8 区 No.1トレンチ甲面図・柱状図 9 第 35 図 D 区 No.2トレンチ配置 0 上 No.2トレンチ甲面図・柱状路図 20 第 36 図 D 区出土遺物 (1) 第 37 図 D 区出土遺物 (1) 第 37 図 D 区出土遺物 (2) 第 38 図 D 区出土遺物 (3)

表 目 次

写真図版目次

表	1	調査工程表(A区・B区・C区・D区)	5	図版	1	A区(1)	47
表	2	A 区出土遺物集計表	18	図版	2	A⊠(2)	48
表	3	B 区出土遺物集計表	24	図版	3	A ⋈ (3) · B ⋈ (1) ······	49
表	4	C 区出土遺物集計表	33	図版	4	B⊠ (2)	50
表	5	D 区出土遺物集計表	42	図版	5	B⊠ (3)·C⊠ (1) ······	51
表	6	確認遺構数集計表	43	図版	6	C区(2)	52
				図版	7	C⊠(3)·D⊠(1) ·······	53
				図版	8	D ⋈ (2) ·····	54
				図版	9	A 区出土遺物	55
				図版 1	10	A 区・C 区・D 区出土遺物	56
				図版 1	11	D 区出土遺物	57

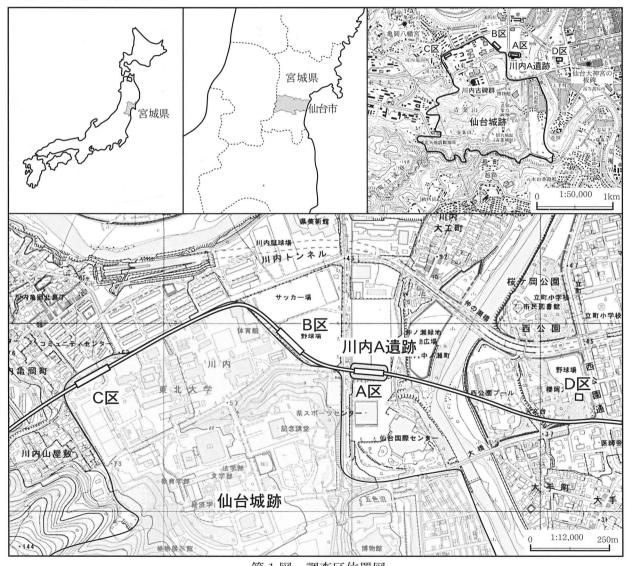
Ⅰ.調査の概要

1 調査の経緯

平成11年5月、仙台市教育委員会と当時事業主管局であった仙台市都市整備局との間で、高速鉄道東西線建設事業に伴う遺跡の取り扱いについての第1回目の協議が持たれた。その後、事業主管局は仙台市交通局に移され、平成15年度より仙台市教育委員会との本格的な協議が開始された。

高速鉄道東西線事業計画予定路線内における、周知の遺跡及び遺跡外の状況把握のため確認調査及び試掘調査をまず実施し、その結果を踏まえ本調査を必要とする箇所を決定し、これを基に発掘調査を順次、事業計画に沿いながら進めて行くことが両者間で確認された。

以上の協議事項に基づき平成16年度より、発掘調査が開始される運びとなった。発掘調査の初年度にあたる今年度は、対象地区を仙台城跡及び周辺地区、西公園地区とし、確認調査・試掘調査を実施した。確認調査は3箇所、試掘調査は1箇所である。これらの内、事業計画予定路線内のものは3箇所、関連工事地内のもの1箇所である。確認調査・試掘調査のトレンチ総数は18箇所、総面積は448㎡である。調査は、A区の仮称国際センター駅部の確認調査を平成16年6月14日に開始し、D区の仮称西公園駅部隣接地の試掘調査を同年9月17日に終了し、本年度の野外調査を完了した。



第1図 調査区位置図

2 調査要項

遺跡 名:仙台城跡 (宮城県遺跡番号第01033号、仙台市文化財登録番号C-501号)

川内 A 遺跡 (宮城県遺跡番号第 01558 号) 他

所 在 地:宮城県仙台市青葉区川内・青葉山・桜ヶ岡公園地内

調 査 主 体:仙台市教育委員会(生涯学習部文化財課)

調 查 担 当:調查係主查 佐藤甲二

調査係主任 斎野裕彦

調查補助員 北原正範(株式会社第三開発 発掘調査部)

調 査 面 積:448 m

A区(仮称国際センター駅部) 180 m (今回の仙台城跡隣接地試掘調査結果を受けて平成16年7月 「川内A遺跡」として遺跡登録)

B区(扇坂トンネル部)

108 m²(仙台城跡隣接地試掘調査)

C区(亀岡トンネル部)

90 m (仙台城跡確認調査)

D区(仮称西公園駅部隣接地) 70 ㎡

調查期間: A区平成16年6月14日~平成16年6月25日

B区 平成16年8月24日~平成16年8月27日

C区 平成16年8月18日~平成16年9月 3日

D区 平成16年9月 6日~平成16年9月17日

Ⅱ. 立地と歴史的環境

調査対象となった仙台城跡及びその隣接地、川内A遺跡他は、仙台市街地の西方、青葉山山麓、北と東を広瀬川、南を竜の口渓谷に囲まれた広瀬川中流域の河岸段丘面に立地している。河岸段丘は丘陵地帯から、青葉山段丘・仙台台ノ原段丘・仙台上町段丘・仙台中町段丘・仙台下町段丘の5面で形成され、広瀬川右岸のA区は仙台下町段丘、B区は仙台中町段丘相当面、C区は仙台上町段丘面、広瀬川左岸のD区は仙台中町段丘面に立地する。標高は約40 mから70 mである。

1 A区

A区は広瀬川中ノ瀬西側、川内地区を南北に分ける沢の北側、仙台城跡北東端部から北東へ 30 mの仙台下町段丘面に立地し、標高は約 40 mを測る。近年まで仙台商業高校グランドであったが、現在では駐車場等として利用されている。A区は『奥州仙台城絵図』(第 2 図-1)において侍屋敷と記されており、二の丸北方武家屋敷地区内に位置している。『仙台城下絵図』・『安政補正改革仙府絵図』(第 2 図-2 · 3)では、御炭蔵と記されている。また、明治以降では軍の施設が置かれ、大正、昭和にかけては兵器廠として利用された。第二次大戦後は米駐留軍の管轄となり、昭和 32 年に返還され現在に至っている。

2 B区

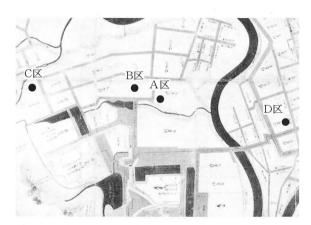
B区は仙台城跡北東端から北へ 20m の仙台中町段丘相当面に立地し、標高は約 47 mを測る。現在、広く平坦な面は東北大学川内キャンパス内グランドとして利用されている。絵図によると(第 2 図 - 1 ・ 2)、調査区が位置する仙台城二の丸北側は沢と堀が存在し、これを境に、北方は大きく地割された武家屋敷地が描かれている。明治以降では、A 区と同じく軍施設が置かれた。

3 C区

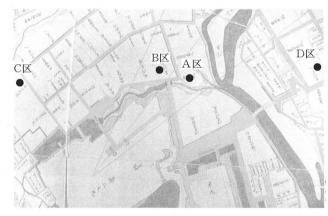
C区は仙台城跡北西端から南へ 20m の仙台上町段丘面に立地し、仙台城跡の北端部に位置する。標高は約70 mを測る。東に位置するB区との比高差は約20 mを測り、500 m程の距離で緩やかに傾斜しながら仙台中町段丘へ標高を下げる。現在は東北大学川内キャンパス構内の駐車場として利用されている。『仙台城下絵図』・『安政補正改革仙府絵図』(第2図-2・3)においては、江戸時代初頭より中期以降幕末まで、屋敷地として利用されていたと考えられる。明治以降ではA・B区と同じく軍施設が置かれ、昭和20年には仙台空襲により仙台城の全ての建物は焼失したといわれている。戦後は米駐留軍の管轄となり、返還される昭和32年以降東北大学川内キャンパスとなる。構内は1970年代以降多くの施設建設に伴い、主に東北大学埋蔵文化財調査研究センターにより調査が行われている。

4 D区

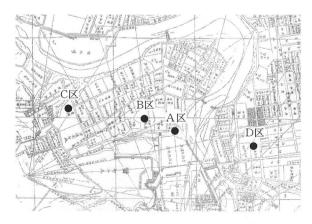
D区は仙台城跡から東へ300 mの仙台中町段丘面に立地し、広瀬川に架かる大橋の北東側、桜ヶ岡公園地内に位置する。標高は約43 mを測る。D区は仙台城大手門に通じる主要な幹線道の近くに位置し、絵図においても武家屋敷と町屋敷の境界付近であったことが窺える。昭和初期には西公園ならびに公會堂として記されている(第2図-4)。現在は公園・グランドなどとして利用されている。



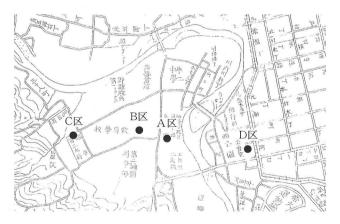
1. 『奥州仙台城絵図』(正保2・3年 1645・6)



2. 『仙台城下絵図』(天明6~寛政元年 1786~9)



3. 『安政補正改革仙府絵図』(安政3~6年 1856~9)



4. 『昭和十一年現在最新仙台市全図』

第2図 絵図・古地図における調査区の位置

Ⅲ.調査方法と経過

設定された調査区の表土層を重機により排土し、その後人力にて遺構確認を行った。今回は確認・試掘調査であり、一部を除いて遺構掘削は行わず、平・断面の土層堆積状況を観察し、計測・写真撮影を行い記録した。計測作業は調査対象箇所が広範囲にわたるため、D区を除いて調査グリッドの設定は行わず、路線敷センター杭の国家座標(日本測地系座標)をもとに電子測量用杭を適地に設けた。これらの杭を基準に光波測量器により調査区位置を設定し、全体平面図・遺構平面図・断面図実測ポイント・遺物出土位置の計測を行った。標高は指定された標高基準点よりレベル測定器にて移動を行い、上記測量用杭に標高を設定し、光波測量器による各計測ポイントに標高値を持たせデータ化した。検出された遺構名の略語に関しては凡例に表示した。遺構番号は各トレンチごとに検出順に通し番号で表記した。

出土遺物は出土年月日順に番号を付け取り上げ、登録した。D区は座標に沿った 5 m グリッドを設定(原点 x =-2905、y =-193500 を x A1 グリッド北西角とした)し、出土位置の特定が困難な遺物はグリッド別、層位別に番号を付け取り上げた。

計測されたデータは測量ソフトを用いデータ編集を行い、ドローソフトにより、断面図と合わせ国家座標上に図面化した。報告遺物は手実測とデジタル実測を併用し、実測図の作成を行った。

1 A区

A区の試掘調査は平成16年6月14日~6月25日に実施した(9日間)。

- 6月14日: 基準点・水準点移動をし、調査区 No.1 ~ No.6 トレンチを設定。仮設設置。
- 6月15日: No.1~No.4トレンチ重機掘削。
- 6月16日: No.5・No.6トレンチ重機掘削。No.1トレンチ遺構確認、平面写真撮影。

No.2 トレンチ遺構確認、平・断面写真撮影・作図。

- 6月17日: No.5・No.6トレンチを重機掘削。No.1トレンチ再度平面写真撮影。断面写真撮影・作図。
- 6月18日: No.3・No.4トレンチ遺構確認、平・断面写真撮影。No.5トレンチ遺構確認、平・断面実測・作図。 No.6トレンチ遺構確認、平面実測・作図。
- 6月21日: No.1・No.5トレンチ再度重機掘削。平・断面写真撮影。

No.6 トレンチ再度重機掘削、平・断面写真撮影、平面実測・作図。埋戻し。

- 6月22日: No.1・No.3 ~ No.5 トレンチ平・断面写真再撮影、断面実測・作図、平面実測・作図。
- 6月24日: No.2 ~ No.4 トレンチ埋め戻し。
- 6月25日: No.1トレンチ埋め戻し。No.5トレンチ埋め戻し。各トレンチの転圧および整地。仮設撤去。

2 B区

B区の試掘調査は平成16年8月24日~8月27日に実施した(4日間)。

- 8月24日: 基準点・水準点移動をし、センターライン復元。調査区 No.1 ~ No.6 トレンチを設定。仮設設置。
- 8月25日: No.1 ~ No.6 トレンチ重機掘削。No.1 トレンチ遺構確認、平・断面写真撮影、平面実測・断面略図実測・ 作図。No.1 トレンチは、深度が 2 mを超えたため、危険につき埋め戻し。
- 8月26日: No.2~ No.6トレンチ遺構確認。平・断面写真撮影。断面実測・作図、平面実測・作図。
- 8月27日: No.2 ~ No.6 トレンチを埋め戻し。各トレンチの転圧および整地。仮設撤去。

3 C区

C区の確認調査は平成16年8月18日~9月3日に実施した(12日間)。

- 8月18日: 基準点・水準点移動をし、調査区 No.1・No.2 トレンチを設定。仮設設置。
- 8月19日: No.1・No.2トレンチ重機掘削。
- 8月20日: No.1・No.2トレンチ遺構確認、平面写真撮影。
- 8月23日: No.1・No.2トレンチ平・断面写真撮影、断面実測・作図、平面実測・作図。
- 8月24日: No.1 · No.2 トレンチ埋め戻し。各トレンチの転圧および整地。
- 8月25日: No.1・No.2トレンチ舗装復旧。仮設撤去。
- 8月27日:調査区 No.3~ No.5 トレンチを設定。仮設設置。
- 8月30日: No.3・No.4トレンチ重機掘削。
- 8月31日: No.3・No.4トレンチ遺構確認、平・断面写真撮影。No.5トレンチ重機掘削、遺構確認。
- 9月 1日:調査区 No.3 ~ No.5 トレンチを設定。仮設設置。No.3 トレンチを埋め戻し。
- 9月 2日: No.4・No.5 トレンチを埋め戻し。舗装復旧。
- 9月 3日:仮設撤去。

4 D区

D区の試掘調査は平成16年9月6日~9月17日に実施した(10日間)。

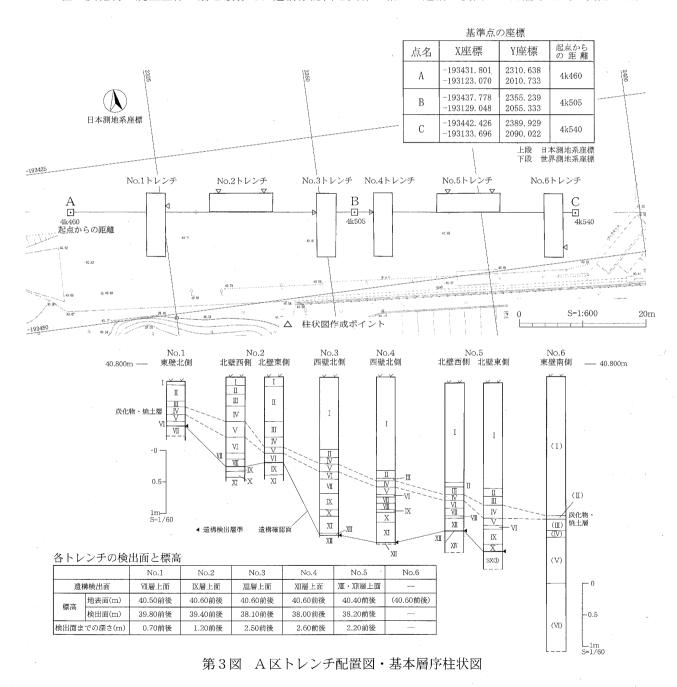
- 9月 6日:基準点・水準点移動をし、調査区を設定。仮設設置。
- 9月 7日:調査区重機掘削。遺構確認。
- 9月 8日:調查区重機掘削。遺構確認。確認写真撮影。遺構掘削。
- 9月 9日:遺構確認。平面写真撮影。遺構掘削。
- 9月10日:遺構平・断面実測・作図。平・断面写真撮影。遺構掘削。
- 9月13日:遺構掘削。遺構平・断面写真撮影。断面実測・作図、平面実測・作図。
- 9月14日:遺構掘削。平・断面写真撮影。断面実測・作図、平面実測・作図。
- 9月15日:調査区平・断面写真撮影、壁断面実測・作図、平面実測・作図。
- 9月16日:調査区埋め戻し。転圧および整地。
- 9月17日: 仮設撤去。復旧作業。

表1 調査工程表(A	区 · B区 ·	C区·D区)							
	6月	7月	8,	8月					
作業内容	14 30	15	31 1 15	31	1 17				
調査事務所設置 器材搬入									
測量基準点設置									
表土重機排土									
遺構検出 検出遺構写真撮影									
検出遺構等測量									
調査区埋め戻し									
基礎整理									
器材搬出 調查事務所撤去									
各区の調査期間	A区			B区・C区	D区				

IV.A区の調査成果

1 調査区の設定および基本層序

路線敷センターラインに沿うように6箇所のトレンチを設け、西側よりNo.1からNo.6までの名称を付けた。路線敷の幅が16mということから、なるべく全体の状況を把握するため長軸を東西、南北方向にそれぞれ配置した。全て3×10mの長方形で設定したが、掘削深度はそれぞれで異なっている。延べ調査面積は180㎡である。掘削においては、近・現代の盛土層の堆積が厚く、砂礫層上面を確認するために深度が2mを越えるトレンチもあったため、安全上の理由から幅3mより広く掘削を行ってから段状に掘り進めた。A区の基本層序は第3図のように各トレンチごとに盛土および旧表土より、ローマ数字を用い層位を表記した。各トレンチ間の層位の対応関係は厚さ10cm程の炭化物・焼土主体の層を破線で、遺構確認面を実線で結び、遺構が検出された層準を▼で表記した。



2 検出された遺構と遺物

No.1 トレンチ (第4~6 図、図版1-2~5)

No.1トレンチは南北方向に長軸を設定した。掘削形状は10×3mの長方形で、面積は30㎡である。基本層序の断面・柱状図作成は、東壁と北壁で行った。盛土および旧表土を除去し、VI層上面で遺構確認を行ったが、南側と中央部に給排水管埋設による攪乱を検出するのみであった。これを掘削する過程で北側に基本層VI層を確認した。そこでVI層を除去し、VI層上面にて遺構確認を行った。掘削深度は0.7mを測った。遺構は5基検出された。遺物は67点出土した。その内容は磁器22点、陶器15点、瓦17点、縄文土器9点、石器1点、鉄製品2点、ガラス1点である。

(1) SK1 土坑 (第4図、図版1-2・5)

調査区中央やや南よりに位置する。北側を攪乱され、南側は SX1 を切る。東側は調査区外へ広がる。平面形は不整形で、上端の長軸で 1.6m 程である。遺物は確認面より石器(第 6 図 - 3 、図版 9 - 8)が出土した。

(2) SK2 土坑 (第4回、図版1-2)

SX1 の西側に位置する。北側を攪乱され、西側はトレンチ北側まで広がる SX2 に切られる。平面形は不整形で、上端の長軸で 1m 程である。遺物の出土はない。

(3) SX1 性格不明遺構(第4回、図版1-2)

SX1 は調査区南側に位置する。南側を攪乱され、北側を SK1 に切られる。上端規模は 1.5 m以上で東側は調査区外へ広がる。遺物は埋土上部から縄文土器(第 5 図 1 ~ 3、図版 9 - 1)が出土した。第 5 図 1 は、深鉢の胴部であり地文が確認される。遺構の時期は縄文時代以降である。

(4) SX2 性格不明遺構 (第4回、図版1-2)

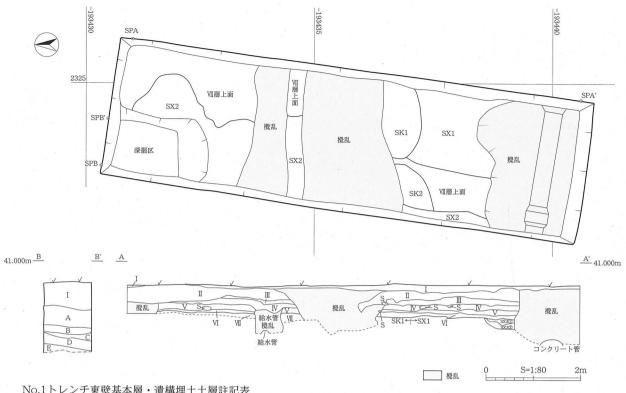
SX2 は調査区西側に位置する。中央を攪乱され、SK2 を切る。上端規模は8 m以上で、西側は調査区外へ広がる。 埋土は砂礫が主体である。北壁断面において SX2 埋土に対応する層は確認されていない。遺物の出土はない。

(5) SX3 性格不明遺構 (第4回、図版1-3)

SX3 は東壁断面において確認された。平面形は不明である。埋土は2層で SX1 を切る。遺物の出土はない。

(6) 遺構の検出面と時期

遺構は基本層 III 層上面で 4 基、断面観察で 1 基検出した。遺構の変遷は新旧関係から 2 時期認められる。基本層 III 層上面は出土遺物などから主に近世の遺構面と考えられるが、縄文時代の遺構が存在する可能性もある。遺構の検出状況からは、No.1 トレンチ周辺の遺構の密度は高いと推測される。



110.1	1 1 7 7	水里还 个作	是"性"主		1111	
層位	E	上 色	土質	土	性	AH: +r
眉似	土色No.	土色	工質	粘性	しまり	備考
I	7.5Y5/2	灰褐色	砂	なし	なし	表土、グランド整地層。
II	10YR2/2	黒褐色	黒褐色土	なし	ややあり	径1~5cmの円礫を多く含む、径2~3mmの炭化物焼土粒を多く含む盛土層。
Ш	10YR3/4	暗褐色	暗褐色土	なし	あり	砂質シルト、鉄分、炭化物粒を微量に含む。
	10YR2/1	黒褐色	炭化物	なし	ややあり	径5mm程の砂礫を多く含み、炭化物鉄分少量。
	10YR3/4	暗褐色	暗褐色土	なし	あり	径1cmの礫を少量、炭化物、焼土粒を少量含む。
	10YR2/3	黒褐色	砂礫	なし	なし	径1~5cmの円礫が主体の砂礫層、炭化物を少量含む。
	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径1~2mmの炭化物と鉄分微量。
_	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	あり	ややあり	径1~2㎜焼土粒炭化物少量、径3~5㎜灰白色シルト粒を微量含む。
SX3②	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径1~2mm炭化物、鉄分微量、灰白色シルト粒を微量、径5cm程の円礫を含む。

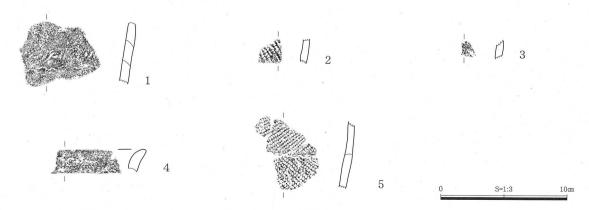
No.1トレンチ北壁柱状図基本層土層註記表

層位		上 色	_L. RF:	土	性	H+ ±
眉亚	土色No.	土色	土質	粘性	しまり	備考
I	7.5Y5/2	灰褐色	砂	なし	なし	グランド整地層。
Α .	10YR4/4	褐色	砂礫	なし	なし	径5~15cmの円礫が主体、黄褐色シルトブロックを多く含む。(径1cm大)
В	10YR4/6	褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径1~2㎜の鉄分少量含む。
С	10YR3/4	暗褐色	砂礫	なし	なし	鉄分を多く含む。シルトを含む。
D	10YR2/1	黒色	砂礫	なし	なし	炭化物が主体、鉄分多く含む。シルトを含む。
Ε	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂礫	なし	なし	径2~5cmの砂礫が主体、酸化鉄分を多量に含む。

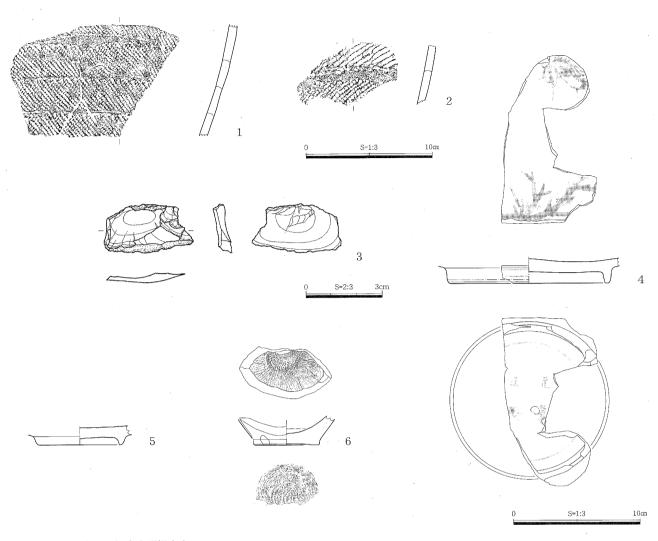
No.1トレンチ遺構埋土土層註記表

層位		上 色	1- RE	土	性	Htt. +r
相立	土色No.	土色	土質	粘性	しまり	備考
SK1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径1~2mmの鉄分と炭化物致微量、白色シルト粒をやや多く含む。
	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径1~2mmの鉄分と炭化物致微量、灰色シルト粒をやや多く含む。
	10YR3/4	暗褐色	暗褐色土	あり	ややあり	径2cmの円礫を少量含み、径5mmシルトブロック少量、鉄分微量に含む。
SX2	10YR3/4	暗褐色	砂礫	なし	なし	鉄分を多く含む。

第4図 A区 No.1 トレンチ平面図・断面図・柱状図



第5図 A区No.1トレンチ出土遺物(1)



No.1 トレンチ出土 縄文土器観察表

遺物番号 登録番号	図版番号	出土状況	種別	器種	部位	外面	内 面	備考
⊠5-1 A-1	図版9-1	SX1確認面	縄文土器	深鉢	胴部	縄文(結節)	ミガキ	
⊠5-2 A-2	図版9-2	SX1確認面	縄文土器	深鉢	胴部	L{ RR	ミガキ	3と同一個体
⊠5-3 A-3	図版9-3	SX1確認面	縄文土器	深鉢	胴部	ミガキ	ミガキ	2と同一個体
⊠5-4 A-4	図版9-4	(中央部攪乱)	縄文土器	深鉢	口縁部	ミガキ	ミガキ・	
⊠5-5 A-5	図版9-5	(中央部攪乱)	縄文土器	深鉢	胴部	L {RR+R {LL (結束)	ミガキ	繊維含む。
⊠6-1 A-6	図版9-6	(中央部攪乱)	縄文土器	深鉢	胴部	R { LLL	ナデ・ミガキ	繊維含む。7と同一個体の可能性あり。
⊠6-2 A-7	図版9-7	(中央部攪乱)	縄文土器	深鉢	胴部	L{rrr·R{LLL	ナデ・ミガキ	繊維含む。

No.1 トレンチ出土 石器観察表

遺物番号 登録番号	図版番号	出土状況	種 別	器種	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重量 g	石 材	備考
⊠6-3 K-1	図版9-8	SK1埋土	石器	剥片	19	35.5	3.6	2.6	頁岩	背面に褐鉄鉱の付着あり。

No.1 トレンチ出土 磁器・陶器観察表

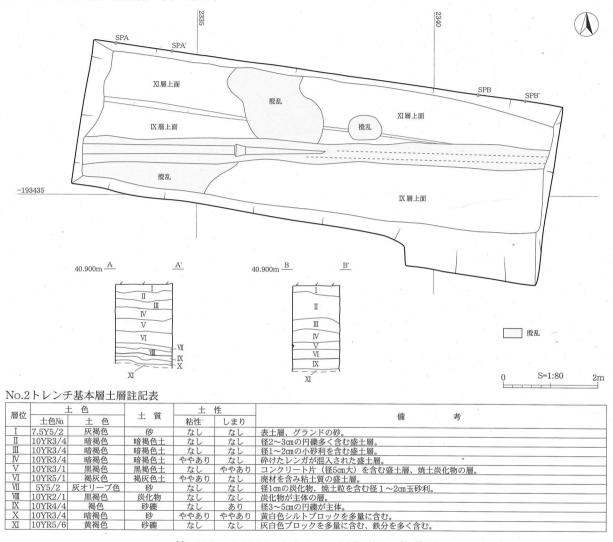
遺物番号	contic vi Ci	出土	705 1711	DD -005	we if to 444 006	法	量 (m:	m)	重量	-45 ms annuint		装 飾		胎土色	印·銘	\$	作	備考
登録番号		状況	種別	器種	形状特徵	口径	器高	底径	(g)	成形・調整	絵付/釉薬	文 様	装飾特徴	胎質	など	製作地	製作年代	IN 79
⊠6-4 J-1	図版9-9	I~IV層	磁器	中皿	丸形 底中 底ハリ1	欠損	(20)	(128)	114.4	ロクロ 削り高台	染付 透明釉	内:竹鷺図 外:-	_	白色	底;銘	肥前系	17C.後 ~18C.前	*:元亀年製
⊠6-5 I -1	図版9-10	V層	陶器	五寸皿	丸形 底広	欠損	(15)	(66)	33.7	ロクロ 削り高台	- 長石釉	内:- 外:-	量付のみ 無釉	乳白色	_	瀬戸・ 美濃系	17C.中 ~18C.前	
図6-6 I-2	図版9~11	V層	陶器	餌擂鉢	ベタ底	欠損	(23)	(52)	42.1	ロクロ 回転糸切底	+ 鉄釉	内:- 外:-	内面櫛目	橙褐色	_	堤?	18C. ~19C.	櫛目7条 10mm幅

第6図 A区No.1トレンチ出土遺物(2)

No.2 トレンチ (第7図、図版1-6・7)

No.2 トレンチは長軸を東西に設定した。掘削形状は 10×3 m の長方形で、面積は 30 ㎡である。基本層序の柱状図作成は北壁の 2 箇所で行った。煉瓦や建築廃材、コンクリート基礎の混入された盛土が深さ約 1.2m まで達し、No.1 トレンチと同じレベルでは自然堆積の礫層は確認されず、その下の焼土層と炭化物層を経て砂礫層へと続いている。この焼土層と炭化物層は No.3 ~ 6 トレンチも見られ層序の基準層となった。

遺構確認はX層で行い、その後北壁際でX層上面でも行った。掘削深度は約1.3m を測った。遺構は検出されなかった。X層はX0.1 トレンチの遺構確認面に対応する層である。遺物はX24 点出土した。その内容は磁器X8 点、陶器X3 点、瓦X12 点、鉄製品X1 点である。



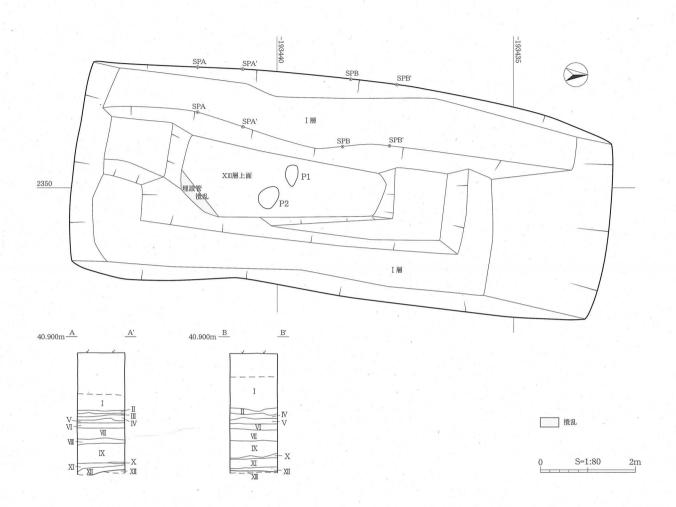
第7図 A区 No.2 トレンチ平面図・柱状図

No.3 トレンチ (第8図、図版1-8、図版2-1・2)

No.3 トレンチは南北方向に長軸を設定した。掘削形状は 10×3 m の長方形で、面積は 30 ㎡である。基本層序の柱状図作成は西壁で行った。掘削深度が 2m を超えても盛土層を掘り抜くことができなかったため、トレンチ幅を拡張して掘削を行った。本トレンチにおいても No.2 トレンチと同様な炭化物・焼土層(V層)が確認でき、X層までは近・現代の盛土層および建築基盤層などである。XI層からは自然堆積層である。遺構は基本層皿層上面でピット 2 基を検出した。検出面の範囲は約 1.4×4.2 m で、深度は約 2.5 mを測った。遺物は 53 点出土した。その内容は磁器 8 点、陶器 8 点、瓦 37 点である。18 世紀後葉~ 19 世紀中葉の肥前系の碗・大堀相馬系の中皿を含む近世の陶磁器(第 9 図 $1 \cdot 2$)が、主に基本層から出土している。

(1) P1・2 ピット (第8図、図版1-8)

調査区中央で検出された。上端径は、共に 0.5m 程の不整円形で、埋土は砂質シルトである。出土遺物はない。 (2)遺構の検出面と時期



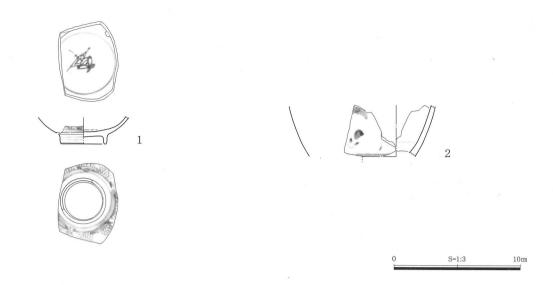
No.3トレンチ基本層土層註記表

層位	E	. 色	L. Fife	土	性	備考
眉1江	土色No.	土 色	土 質	粘性	しまり	備考
I	7.5Y5/2	灰褐色	砂	なし	なし	表土、グランド整地層。
II	10YR3/2	黒褐色	黒褐色土	ややあり	あり	径1~3cm黄褐色シルトブロック少量含む。鉄分少量。
Ш	10YR3/3	暗褐色	暗褐色土	なし	あり	径2~3mmの炭化物を少量含む。
	10YR2/3	黒褐色	黒褐色土	なし	あり	径4~5mmの炭化物少量。径2~5cmの円礫を多く含む。
	10YR2/1	黒色	炭化物	ややあり	なし	径1~2cmの炭化物多量。径2~3cmの礫を多く含む。
VI					#: T	風化した基礎コンクリート。
VII						コンクリート基盤層。径20cmの円礫と砂が主体。
	10YR3/4	暗褐色	暗褐色土	ややあり	ややあり	径4~5mmの炭化物、鉄分を多量に含む。
IX	10YR3/4	暗褐色	粘土	ややあり	ややあり	径3~5cmの円礫を多量に含む。炭化物、鉄分少量含む。
X	10YR2/1	黒色	炭化物	あり	ややあり	炭化物主体の層。
XI	10YR5/8	黄褐色	砂礫	ややあり	ややあり	径5mm大のシルトブロックを多量に含む。5mmの炭化物、鉄分を多く含む。
XII	10YR4/6	褐色	砂礫	なし	なし	黄褐色シルトブロック多量に含む。
XII	10YR4/4	褐色	砂礫	なし	なし	径3~4cmの円礫が主体。径3~4cm黄白色シルトブロックを多量に含む。

No.3トレンチ遺構埋土土層註記表

园 社	土	色	上府	土性		litti zir.
層位	土色No.	土色	工質	粘性	しまり	/
P1	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	なし	灰白色ブロック径2~5cmを多く含む。炭化物微量含む。鉄分を多く含む。
P2	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	なし	灰白色ブロック5~10cmを多く含む。炭化物微量、鉄分を多く含む。

第8図 A区No.3トレンチ平面図・柱状図



No.3 トレンチ出土 磁器・陶器観察表

遺物番号 登録番号	図版番号	版番号 出土 種別 器 種 形状特徴 法量(mm)		m)	重量	成形・調整		装 飾		胎土色	印・銘	製	作	M: -tr.				
登録番号	四川以田つ	状況	作里がり	no th	ルシャハ・ヤアは	口径	器高	底径	(g)	7人7/2 南州空经	絵付/釉薬	文 様	装飾特徵	胎質	など	製作地	製作年代	備考
図9-1 J-2	図版9-12	I~IV層	磁器	中碗	丸形 やや平形	欠損	(22)	(36)	23.5	ロクロ 削り高台	染付 透明釉	見込:昆虫文 外:八ッ橋図	-	白色		肥前系	18C.後 ~19C.前	X
図9-2 J-3	図版9-13	I~IV層	磁器	大碗	広東形	欠損	(41)	欠損	9.9	ロクロ	染付 透明釉	内: 圏線一条 外:草花文	_	白色	-	肥前系	18C.後 ~19C.前	「広東碗」
I -3	図版9-14	I~IV層	陶器	中皿	-	欠損	欠損	欠損	24.8	ロクロー	鉄絵 灰釉	内:松文 外:-	-	灰白色	-	大堀 相馬系	18C.後 ~19C.中	

第9図 A区No.3トレンチ出土遺物

No.4 トレンチ (第10図、図版2-3~5)

No.4トレンチは南北方向に長軸を設定した。掘削形状は 10×3 m の長方形で、面積は 30 ㎡である。基本層序の柱状図作成は西壁で行った。No.4トレンチは No.3トレンチに見られた基礎コンクリートの風化した層はないが、概ね No.3トレンチと類似した堆積の様相を呈している。掘削は段状に行い、基本層X層上面で遺構確認を行った。検出面の範囲は約 2×4.6 m であり、掘削深度は約 2.6m を測った。遺構はピット 3 基と不明遺構 1 基を検出した。

遺物は9点出土した。その内容は磁器6点、陶器3点、瓦2点、鉄製品2点である。主に基本層から、17世紀前葉~中葉の肥前系の中碗を含む近世の磁器が出土している。

(1) P1・2・3 ピット (第10図、図版2-5)

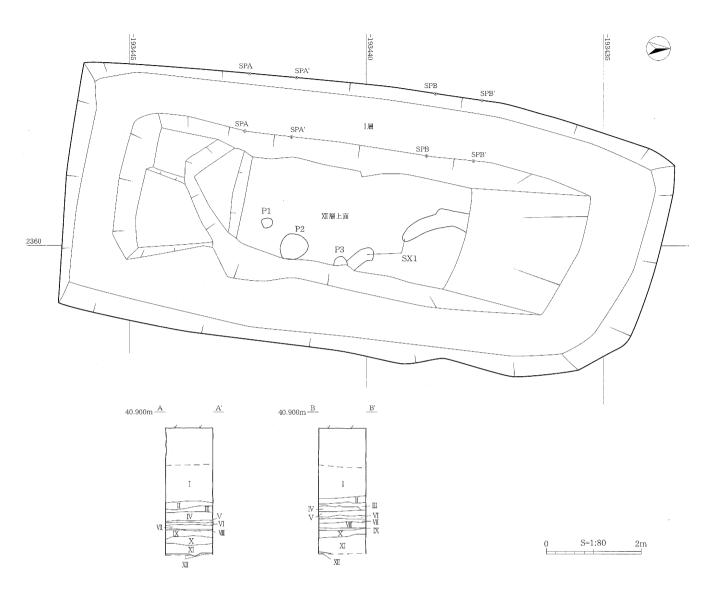
調査区東壁際で検出された。上端径は $0.2\sim0.5$ m 程で、円形である。P3 は SX1 を切り新しい。埋土はシルト質土を多く含む砂礫土である。出土遺物はない。

(2) SX1 性格不明遺構 (第10 図、図版2-5)

調査区北東のXII層上面で検出された。規模は幅 $0.2 \sim 0.3$ m 長さ 1.3m 程の溝状で調査区外へ延びる。埋土は粘性のある砂礫土である。出土遺物はない。

(3) 遺構の検出面と時期

遺構は、基本層XI層上面で4基検出した。XI層上面はNo.1~3トレンチの遺構確認面と対応する。遺構の変遷は新旧関係から2時期認められる。遺構の時期は出土遺物から、近世と考えられる。



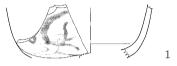
No.4トレンチ基本層土層註記表

層位	_	上 色	_L 89°	土	性	備 考
周加	土色Na	土 色	土質	粘性	しまり	備考
I	7.5Y5/2	灰褐色	砂	なし	なし	表土、グランド整地用盛土。
I	10YR3/1	黒褐色	黒褐色土	なし	ややあり	径2~3mmの炭化物を多く含む。焼土微量に含む。
III	10YR2/1	黒色	炭化物	なし	なし	径2~3mmの炭化物を多量に含み、径2~3mmの焼土多量に含む。炭化物が主体。
IV	10YR3/1	黒褐色	砂	なし	あり	径5cm程の円礫を少量含む径2~3mm炭化物を多く含む。レンガ片・木片・丸釘等を含む。
V	5Y5/2	灰オリーブ色	砂	なし	なし	径3~4mmの砂礫を多量に含む。
VI	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	径2~3cm円礫を少量含む。径2~3mm炭化物を微量に含む。
VII	10YR5/1	褐灰色	砂礫	なし	なし	径1~4cm円礫が主体。
V <u>I</u> I	5Y5/2	灰オリーブ色	砂礫シルト	なし	なし	径2~3mmの炭化物微量。径5mm黄褐色シルトブロックを少量含む。
IX	10YR3/1	黒褐色	砂	ややあり	ややあり	径3~4cm黄褐色、灰白色シルトブロックを少量含む。径3~4mmの炭化物をやや多く含む。
X	10Y6/2	オリーブ灰色	砂礫	ややあり	なし	径3~4mmの炭化物。径1~2cmの黄褐色・灰白色シルトプロックを多く含む。
XI	10YR4/4	褐色	砂礫	なし	なし	径3~4cmの円礫が主体。径3~4cm黄白色シルトブロックを多量に含む。
XII	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径1~2mmの炭物微量に含む、灰白色ブロックを多量に含む、鉄分を多く含む。

No.4トレンチ遺構埋土土層註記表

110.1	1 1 2 2 2 753	11, 11, 11, 11, 11, 11, 11, 11, 11, 11,	/H HT HOW			
□ Hz	土色	<u> </u>	1. 66	土	性	J4± +7
層位	土色No.	土 色	土質	粘性	しまり	畑
SX1	10YR5/8	黄褐色	砂礫	ややあり	ややあり	灰白色のシルトブロック(径5cm大)を多量に含む。径5mmの炭化物、鉄分を多く含む。
P1	10YR3/1	黒褐色	粘土	なし	ややあり	径1~2㎝砂礫を少量。径1~3㎜炭化物微量。鉄分を微量含む。
P2	10YR4/1	褐灰色	粘土	あり	なし	径1~2cm砂礫を少量。径1~3mm炭化物微量。
P3	10YR3/1 #	黒褐色	粘土	あり	なし	径1~2cm砂礫を少量。径1~3mm炭化物微量。

第10図 A区 No.4トレンチ平面図・柱状図



1 0 S=1:3 10cm

No.4トレンチ出土 磁器観察表

遺物番号 登録番号	図版番号	出土	種別	器種	形状特徴	法	量 (mi	n)	重量	成形・調整		装 飾		胎上色	印・銘	25	作	供来
登録番号	凶成留与	状況	個別	石匠 1里	形4八十年版	口径	器高	底径	(g)	以入开》 。 词则 宝金	絵付/釉薬	文 様	装飾特徵	胎質	など	製作地	製作年代	備考
⊠11-1 J <i>-</i> 4	図版9-15	V~XI層	磁器	中碳	丸形 深め	(116)	(45)	欠損	17.5	ロクロー	染付 透明釉	内:一 外:樹下草花文	生掛け	白色	_	肥前系	17C.前 ~中	初期伊万里様式

第11図 A区 No.4トレンチ出土遺物

No.5 トレンチ (第 $12 \boxtimes$) 図版 $2 - 6 \sim 8$ 、図版 $3 - 1 \cdot 2$)

No.5 トレンチは東西方向に長軸を設定した。掘削形状は 10×3 mの長方形で、面積は 30 ㎡である。基本層序の柱状図作成は北壁で行った。掘削は段状で行い、基本層皿層上面・XV層上面で遺構確認を行った。検出面の範囲は約 2×3.5 mで、掘削深度は約 2.2 mを測った。遺構は井戸跡 1 基と性格不明遺構 2 基とピット 3 基を検出した。遺物は 13 点出土した。その内容は、磁器 9 点、瓦 4 点である。

(1) SE1 井戸跡(第12 図、図版 3-1)

(2) P1・2・3 ピット (第12図、図版3-2)

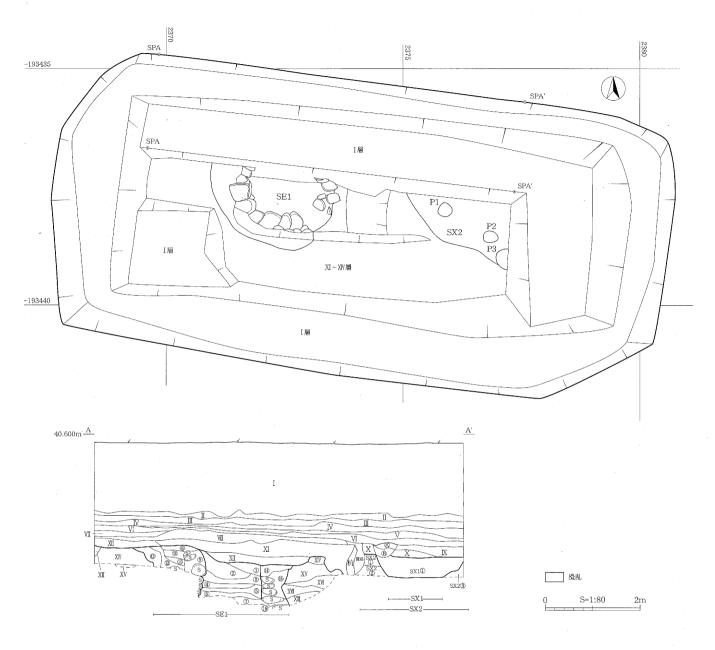
調査区東端 SX2 埋土上面で検出された。上端径は 0.3m 程の円形である。埋土は粘性の強いシルト質土で、木 片の混入がみられた。出土遺物はない。遺構の新旧は切合いから SX1 より古く、SX2 より新しい。

(3) SX1·2性格不明遺構(第12図、図版2-8、図版3-2)

調査区東側で検出した。調査区北東へ広がり、規模は検出部分で1.5 mを上回る。SX2 はSX1 に切られることから遺構の時期はSX2 が古い。北壁断面と平面観察から共に溝状遺構の一部である可能性が考えられる。遺物はSX1 ①層から磁器 2 点、瓦 1 点が出土した。磁器のうち 1 点は 18 世紀前葉~中葉の肥前系火入である。

(4) 遺構の検出面と時期

遺構は基本層 \mathbf{M} ・ \mathbf{N} 層上面で、6 基検出した。 \mathbf{M} ・ \mathbf{M} を \mathbf{M} を \mathbf{M} の $\mathbf{M$



No.5トレンチ基本層土層註記表

	1	基 华眉工眉	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			
層位		上 色	土質	土	性	備考
/首156	土色No	土 色		粘性	しまり)m *5
I	10YR3/2		砂	なし	なし	玉砂利を多く含む盛土層。
I	10YR2/2		粘土	なし	あり	ガラ、レキを多量に含む。
Ш	10YR2/2		砂礫	なし	なし	径1~2cmの砂礫を多く含む。
	10YR2/1	黒色	炭化物	なし	なし	砂礫を多く含む、炭化物主体の層。層上面に焼土層が集中。
V		オリーブ黒色	砂	なし	なし	径1~2cmの砂礫少量。
VI	7.5Y2/2	オリーブ黒色	砂礫	なし	なし	径2~3cmの円礫を多く含む砂礫層。
VII	10YR3/1		砂質シルト	ややあり	なし	径5㎜の炭化物微量に含む。木片や廃材混入。
· VII	7.5Y3/1	オリーブ黒色	砂	なし	なし	径5mm大の炭化物微量、径3cm大の礫を微量に含む。
ΙX	10YR3/1	黒褐色	黒褐色土	なし	なし	径20cm大の礫が主体。
	10YR2/1	黒色	シルト	ややあり	ややあり	径1~2cmの礫を少量含む。丸釘の混入あり。
	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径5~6cmの礫を多く含む。炭化物、鉄分粒を微量含む。
XII	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂	ややあり	なし	径5mmから1cmの黄褐色のシルトブロック少量含む。
XII	10YR3/3	暗褐色	粘土	あり	なし	径1~2mmの炭化物、シルト粒、鉄分微量含む。
XIV	10YR3/4	暗褐色	砂礫	ややあり	なし	径1~2cmの円礫が主体、酸化鉄分多く含む。
XV	10YR4/4	褐色	砂	ややあり	なし	径1~2cmの礫を少量含む。鉄分やや多く含む。
XVI	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂礫	なし	なし	径1~2cmの小礫が主体。酸化鉄分を多量に含む。
XVI		灰オリーブ色	砂質シルト	あり	ややあり	鉄分を多く含む。粘土の混入あり。
	7.5Y4/2	灰オリーブ色	砂	なし	なし	混入物の少ない砂層。
(A)	10YR2/1	黒色	シルト	なし	ややあり	径1~2cmの礫を少量含む。釘等の混入有り。
B	10YR2/1	黒色	黒色土	あり	ややあり	炭化物を多量に含む。丸釘の混入あり、攪乱か?

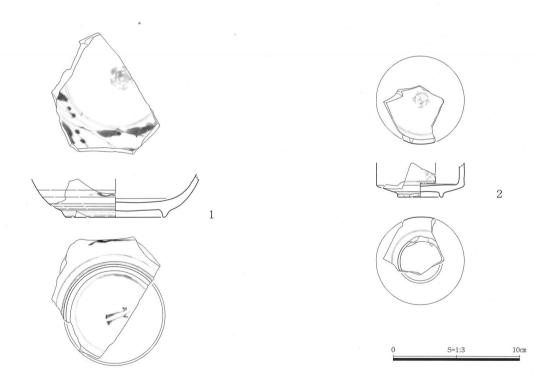
第12図 A区No.5トレンチ平面図・断面図

No.5トレンチSE1・SX1・2遺構埋土土層註記表

<u>古色 </u>	
土色No. 土 色 粘性 しまり	
SE1① 10YR3/1 黒褐色 黒褐色土 ややあり ややあり 径3~5cm程玉砂利。炭化物を多く含む。	
SE12 10YR2/2 黒褐色 黒褐色土 なし あり 径5cm大の礫を多く含む。径5mm大の焼土粒、炭化物粒を多く含む。	
SE1③ 10YR3/1 黒褐色 シルト ややあり あり 径5mm黄褐色のシルト粒を少量。炭化物粒微量、径5cm大の礫少量。	
SEI④ 10YR3/1 黒褐色 シルト なし あり Ⅲ層と同様やや明るい色調。	
SE1⑤ 10YR3/1 黒褐色 シルト ややあり あり 径1~2cmの礫を少量含む、径5mmのシルトブロックを微量、炭化物微量。	
SE1⑥ 10YR3/1 黒褐色 シルト ややあり あり V層と同様の混入だが、V層よりやや明るい色調。	
SEI 0 10YR3/1 黒褐色 シルト ややあり あり V層と同様の層。	
SE1® 10YR3/1 黒褐色 シルト ややあり をやあり 経1cmの円礫を少量、径5mm大の炭化物微量。	
SE1⑨ 10YR3/1 黒褐色 砂質シルト ややあり あり 径5~15cmの円礫を多く含む。	
SE1⑩ 10YR3/2 黒褐色 シルト なし なし 径5cm大の礫を多く含む。	
SEI① 10YR3/2 黒褐色 シルト なし X 層と同様だが、シルトブロックが混入されている。	
SE1@ 10YR4/2 灰黄褐色 シルト ややあり あり 径5mm大のシルトブロックを多く含み粘土質の層。	
SE1 ⁽³⁾ 10YR3/1 黒褐色 砂礫 なし 砂礫主体の層で鉄分多く含む。	
SE1@ 10YR3/1 黒褐色 砂質シルト ややあり なし 径10cm大の礫を多く含む。	
SE1⑸ 10YR4/2 にぶい黄褐色 粘土 あり なし 径1cm大の礫を少量含む。	
SE1億 7.5Y4/2 灰オリーブ色 砂 なし 混入物が少ない砂層。	
SX1① 10YR2/1 黒色 シルト ややあり あり 径1cm程の炭化物、やや多く含む。径3cm大の礫を少量含む。	
SX2①10YR2/1 黒色 シルト なし あり 径5cm大の礫少量。炭化物シルト粒少量混入。	
SX2②10YR2/1 黒色 シルト なし あり SX2の①層と同様の層だが、やや明るめ。	
SX2③10YR3/2 黒褐 シルト ややあり 谷1cm大の礫を少量含む。	

No.5トレンチP1~3遺構埋土土層註記表

層位	-	上 色	_L 1999	土	性	j±: ±v.
眉红	土色No.	土 色	土 質	粘性	しまり	備考
P1	10YR2/1	黒色	シルト	ややあり	なし	木杭の掘り方のピット。
P2	10YR2/1	黒色	シルト	ややあり	なし	木杭の掘り方のピット。
P3	10YR2/1	黒色	シルト	ややあり	なし	木杭の掘り方のピット。炭化物微量に含む。



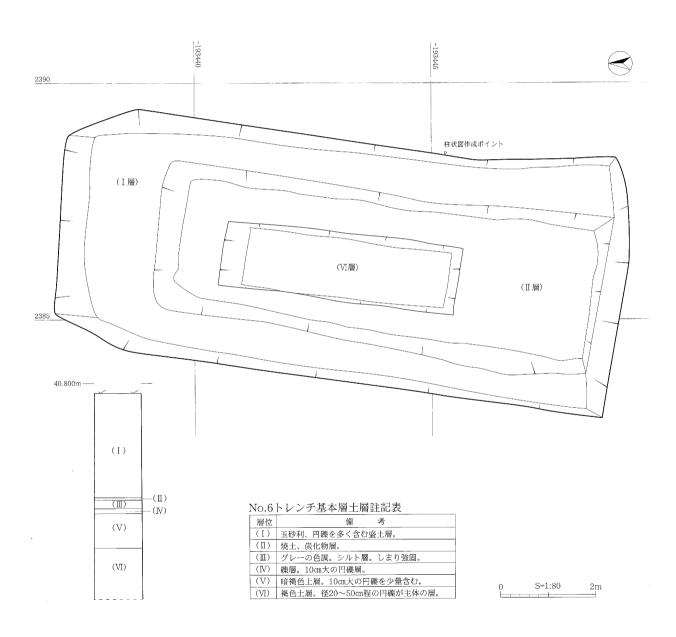
No.5 トレンチ出土 磁器観察表

遺物番号	図版番号	出土	種別	器種	形状特徵	法	量 (m	m)	重量	where our 4-		装 飾		胎土色	印·銘	數	作	Itti: -tr.
登録番号	凶版番号	状況	性历リ	名6 在里	形化特徵	口径	器高	底径	(g)	成形・調整	絵付/釉薬	文 様	装飾特徵	胎質	など	製作地	製作年代	備考
図13-1 J-5	図版9-16	I~IV層 +SE1埋土	磁器	小皿	丸形	欠損	(35)	(83)	80.5	ロクロ 削り高台	染付 透明釉	見込:五弁花* 内:草花文 外:唐草文	*:コンニャク 印判	灰白色	底:銘	肥前系 波佐見	17C.後 ~18C.前	**: 崩し太明年 製, くらわんか手
図13-2 J-6	図版9-17	IX層	磁器	小碗	半筒形	欠損	(27)	(36)	17.6	ロクロ 削り高台	染付 透明釉	見込: 五弁花 外:格子文	_	白色	-	肥前系	18C.後 ~19C.前	「筒形碗」
- J-7	図版10-1	SX1 ①層	磁器	碗	_	欠損	欠損	欠損	9.5	ロクロ 削り高台	染付 透明釉	見込:草文 高台内:圈線一条	-	白色	= .	肥前系	17C.中 ~後	
J -8	図版10-2	SX1 ①層	磁器	火入	半筒形	欠損	(39)	欠損	12.5	ロクロー	染付 透明釉	内:- 外:草文	墨弾き 内面無釉	白色	-	肥前系	18C.前 ~中	

第13図 A区 No.5 トレンチ出土遺物

No.6 トレンチ (第 14 図、図版 3 - 3 · 4)

No.6 トレンチは南北方向に長軸を設定した。掘削形状は 10×3 m の長方形で、面積は 30 ㎡である。基本層序の柱状図作成は東壁で行った。本トレンチは他の 5 箇所のトレンチと様相が違い、 I ・ I 層は共通しているが、 I 層の焼土・炭化物層の下層は、他のトレンチには見られない礫(直径が $10 \sim 50$ cm)を主体とした層である。砂礫層を検出するために下層へ掘削を行ったが、深さ約 4.4m を掘ったところで、安全上の理由から砂礫層の検出を断念した。早急な埋め戻しの必要から、土層断面図はレベルを測定して柱状略図とした。上記の理由から他トレンチとは若干の精度差はあるものの、概ね土層の堆積状態を把握した。検出面の範囲は約 1.2×4.2 m で、深度は約 4.4m を測った。遺構の検出はなく、遺物は出土していない。



第14図 A区No.6トレンチ平面図・柱状図

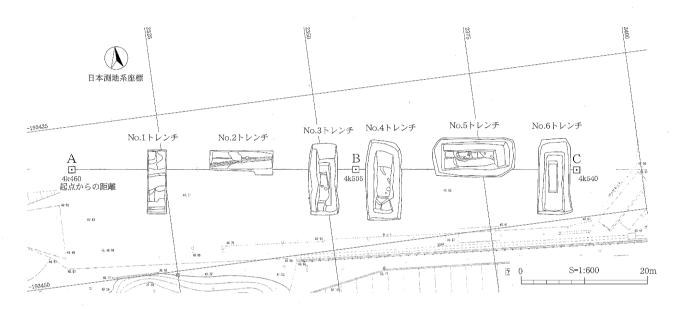
3 まとめ

A区の試掘調査は、No.1 \sim No.6 トレンチの 6 箇所で行った。調査面積は、180 $\rm m$ である。

遺構確認の結果、No.1・No.3・No.4・No.5トレンチにおいて遺構が検出された。

No.1トレンチでは、土坑 2 基と性格不明遺構 3 基が基本層 層上面で検出された。 層上面は近世の遺構と考えられ、それに対応する遺構面は No.2 \sim No.5 トレンチにおいても確認され、近世の遺構も検出されている。

これらの遺構群には、3 時期にわたる新旧関係が認められるトレンチがあること、各トレンチとも近世の遺物出土量が多いことから、A 区には、ほぼ全域に近世の遺構が存在し、3 時期以上の遺構の変遷が考えられる。



第15図 A区全体平面図

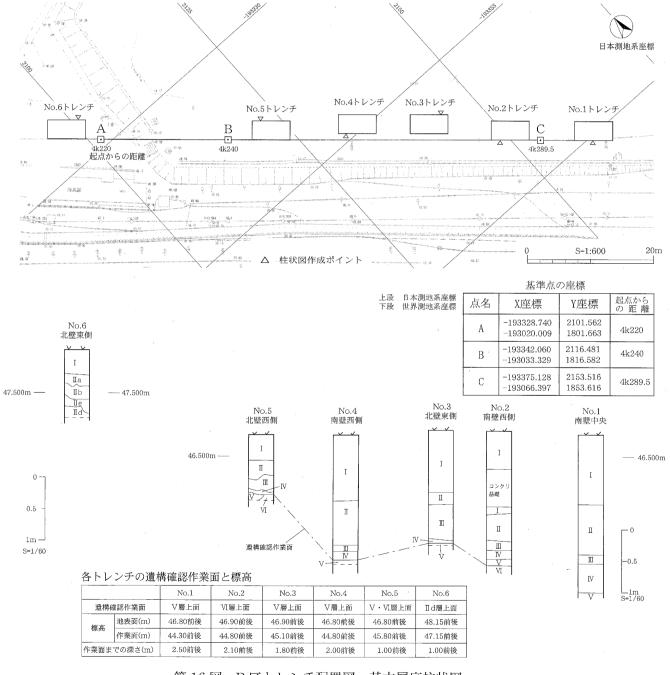
表 2 A 区出土遺物集計表

	57	縄フ	大土器		器	156	哥器	炻	器		瓦	鮲	製品		ラス		5器	台	
A	区	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)
No.1トレンチ	攪乱	6	154.2	3	27.2	4	94.4			2 ;	229.1	1	198.9	1	7.6			17	711.4
	I ~IV層	i		12	166.1	6	244.4	li		7	835.9	1	68.5	<u>i</u>				26	1,314.9
	V層			7	41.5	5 (91.4			8	1014.0							20	1,146.9
	SK1															1	2.6	1	2.6
	SX1	3	31.3															3	31.3
No.2トレンチ	I ~IX層	- :		8	70.1	3 :	84.7			12	1539.0	1	117.9					24	1,811.7
No.3トレンチ	I ~IV層	i		6	51.8	6	64.3			10	569.6]	L				22	685.7
	V~XI層			2	6.6	2	77.7	1		27	2132.0							31	2,216.3
No.4トレンチ	I ~IV層			1	10.9	3	24.9	1						i				4	35.8
	V~XI層			3	65.5]	1	82.6							4	148.1
	V~XII層							-				1	68.9					1	68.9
	VI層			2	5.3					. 1	54.4	1	26.7					4	86.4
No.5トレンチ	I ~IV層			3	73.0	- 1		- 1				- 1		1				3	73.0
	Ⅲ~VI層			2	5.0					2	95.2							4	100.2
	IX層			1	17.6													1	17.6
	SE1			1	54.5					1	46.7							2	101.2
	SX1			2	21.9			1		1	332.6			-				3 :	354.5
合	計	9	185.5	53	617.0	29	681.8	0;	0.0	72	6,931.1	5	480.9	1	7.6	1	2.6	170	8,906.5

V.B区の調査成果

1 調査区の設定および基本層序

路線敷センターラインに沿うように、6 箇所のトレンチを設定した。掘削形状は 3×6 m の長方形を基準とし、南より No.1 \sim No.6 と名称を付け、No.1 トレンチより調査を行った。調査面積は 108 ㎡である。重機により表土を除去し、トレンチ全体を遺構確認面まで掘り下げる予定であったが、No.1 \sim No.4 トレンチは、盛土の堆積が厚く、埋設管および構造物基礎もあったことにより、一部段をつけ掘削、平・断面の確認を行った。掘削深度 2m 前後の層準で遺構確認作業を行った。No.2 \sim No.5 トレンチは、基本層序の観察において対応する基本層を確認した。遺構確認を行った作業面を一点鎖線で、層位はローマ数字で表記した。

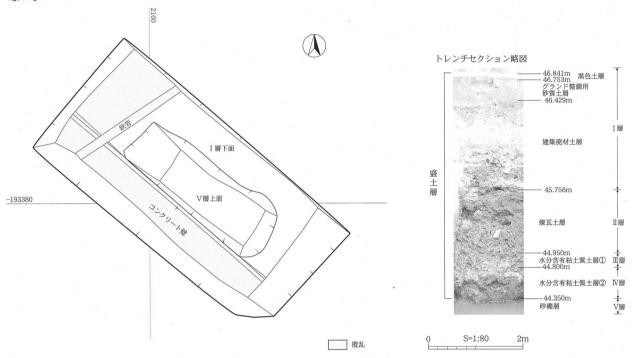


第16図 B区トレンチ配置図・基本層序柱状図

2 検出された遺構と遺物

No.1 トレンチ (第17図、図版3-7・8)

No.1トレンチは、北西より南東へ長軸を設定した。掘削形状は 3 × 6m の長方形で、面積は 18 ㎡である。基本層序の観察は南壁で行った。グランドの砂層下からは、建築廃材が多く混入した盛土層および構造物の基礎、煉瓦が主体の盛土層が約 2 m下まで続いた。平面での確認を断念し、下層の堆積状況の確認を行った。深さ約 2.5 mを測ったところで砂礫層を確認したが、安全上の理由から掘削を止めて写真撮影を行った。早急な埋め戻しの必要から土層断面図は、レベルを測定して柱状略図とした。掘削深度は約 2.5m を測った。遺構の検出、遺物の出土はない。



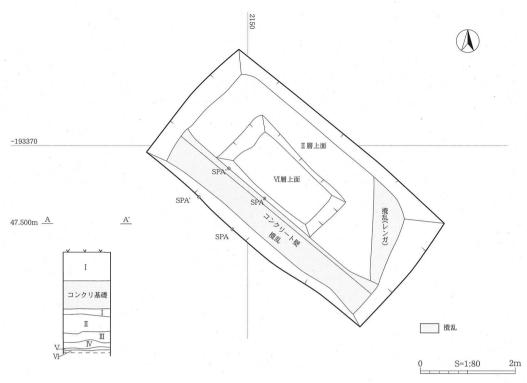
第17図 B区 No.1トレンチ平面図・柱状略図

No.2 トレンチ (第18 図、図版4-1・2)

No.2トレンチは、北西から南東へ長軸を設定した。掘削形状は 3×6 m の長方形で、面積は 18 m である。基本層序の柱状図作成は西壁で行った。地表下 0.4 m ほどで西側に近・現代の構造物に伴うであろうコンクリートの基礎が現れた。さらに掘削を進め基礎底部よりやや下から II 層(鉄分を多く含むシルト質土層)を確認し、遺構確認を行った。南側平面において煉瓦を多く含む範囲を観察したが、No.1 の断面で確認された煉瓦土層と同様と思われたため、近代構造物に関わる攪乱と判断した。一部深掘りを行い、基本層 VI 層を確認した。掘削深度 2.1 m を測った。VI 層上面で遺構確認を行ったが、遺構の検出はない。遺物は I 層より近代の陶器片 1 点が出土した。

No.2	1	V	ンチ	基本層	土層	註記表
------	---	---	----	-----	----	-----

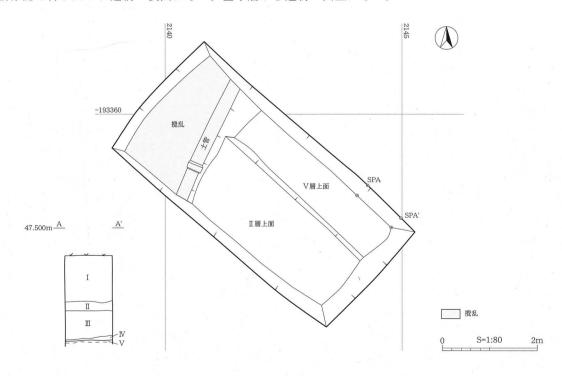
層位		上 色	土質	土	性	備考
眉似	土色No.	土 色	上貝	粘性	しまり	and the state of t
I	2.5Y5/6	黄褐色	砂質土主体	なし	ややあり	3層に分かれる。グランド整地用の砂層、その下コンクリート基礎の掘り方(10YR3/3)。
II	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	径10cm大の円礫と径3cm大の円礫を少量含む。炭化物微量を含む。
Ш	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径5~10cmの円礫を多く含む。鉄分を含む。
IV	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径2~3cmの小礫を少量含む。
V	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径2~3cmの小礫を多量に含む。全層中しまりは一番弱い。
VI	7.5Y5/1	灰色	砂礫	あり	ややあり	径1~2cmの小礫を多量に含む。径10cm程の礫も含む。砂質シルト、鉄分含む。



第18図 B区 No.2 トレンチ平面図・柱状図

No.3 トレンチ (第19 図、図版4-3・4)

No.3トレンチは、北西から南東へ長軸を設定した。掘削形状は 3×6 m の長方形で、面積は 18 m である。基本層序の柱状図作成は東壁で行った。表層下 0.4m 程で北側にコンクリート製の排水管の存在を確認した。これを避ける形で掘削を進め、II 層上面および下層のII 層上面まで掘削を行なった。掘削深度は約 1.8m を測った。II 層上面で遺構確認を行ったが、遺構の検出はない。基本層から遺物の出土はない。



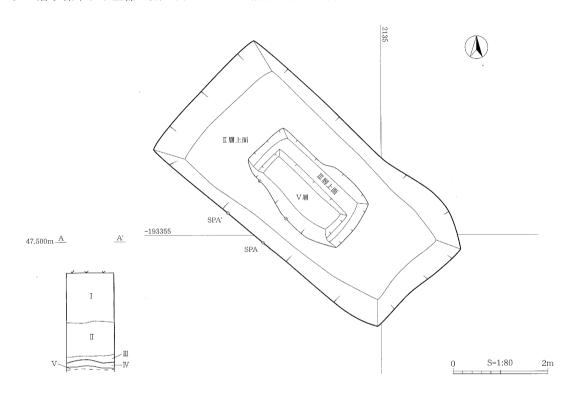
第19図 B区 No.3 トレンチ平面図・柱状図

No.3トレンチ基本層土層註記

F 44	1	上 色	土質	±	性	備考
層位	土色No.	土 色	工質	粘性	しまり	-117
1	2.5Y5/6	黄褐色	砂	なし	ややあり	3層に分かれる。グランド整地用の砂層。その下に径20cm程の円礫の混入した砂質土(7.5YR6/2)。
1	2.313/0		1			小礫の入った砂質土(10YR4/3)。
II	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	径3cm小礫を少量含み、炭化物微量を含む。
III	2.5Y4/3	暗灰黄色	粘土質シルト	あり		径1~3cm程の円礫を微量に含む。径1mm程の灰白色シルト粒をごく微量に含む。鉄分を含む。
IV	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径2~3cmの小礫を少量含む。径2cm程のブロックを微量に含む。
3.7	7, 5375 /1	tr: /z	TO IN TRAFE	+: 10	ややあり	径1~2cmの小礫を多量に含み、径1cm程の礫も含む。砂質シルト、鉄分含む。No.2トレンチの
\ V	7.5Y5/1	灰色	砂礫	あり	1 7 7 8 B	VI層と同じ層。

No.4 トレンチ (第 20 図、図版 4 - 5 ・ 6)

No.4トレンチは、北西から南東へ長軸を設定した。掘削形状は 3 × 6m の長方形で、面積は 18 ㎡である。基本層序の柱状図作成は西壁で行った。地表下 1m 程でⅡ層上面を検出、特に土層の変化はなくⅢ層上面および V層まで段状に掘削し、遺構確認を行った。掘削深度は、約 2.0m を測った。 V層上面で遺構確認を行ったが遺構の検出はない。 V層砂礫中より土器 1 点が出土したが、細片で摩滅が顕著なため時期は不明である。



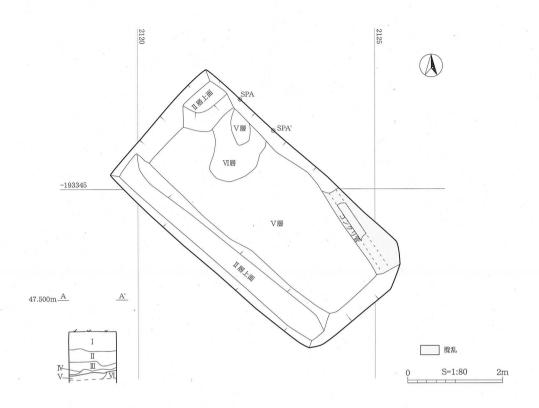
No.4トレンチ基本層土層註記

E 14.	±	. 色	土質	土	性	備考
層位	土色No.	土 色	上具	粘性	しまり	
I	2.5Y5/6	黄褐色	砂	なし	ややあり	2 層に分かれる。グランド整地用の砂層。 $5\sim10$ cmの円礫を多量に含む盛土層(10 YR5/6)。
I	10YR6/8	明黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径5~10cm円礫を多量に含み鉄分多く含む。
Ш	5Y3/2	オリーブ黒	砂質シルト	ややあり	なし	径1~3㎜の灰白色シルト粒多量に含む。
IV	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	20cm大円礫も見られ5cmの円礫も微量含む。
V	2.5Y6/6	明黄褐色	砂礫	あり	なし	径3~5cmの円礫を多量に含む。砂質シルト、鉄分多く含む。

第20図 B区 No.4トレンチ平面図・柱状図

No.5 トレンチ (第 21 図、図版 4 - 7 ・ 8)

No.5トレンチは、北東から南東へ長軸を設定した。掘削形状は 3×6 m の長方形で、面積は 18 ㎡である。基本層序の柱状図作成は東壁で行った。地表下 0.4m 程で II 層上面を確認、遺構の検出はなく、さらに III 層上面および下層の V 層まで埋設管を避け、遺構確認を行いながら掘削を行った。掘削深度は 1m を測った。遺構の検出はない。基本層から遺物の出土はない。



No.5トレンチ基本層土層註記

層位	±	. 色	土質	土	性	備考
眉似	土色No.	土 色	工具	粘性	しまり	1
I	2.5 Y 5/6	黄褐色	砂	なし	ややあり	グランド整地用の砂層。
II	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	なし	10cm大の円礫も見られ3~5cmの円礫も多い。
Ш	7.5 Y 6/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2~3mm灰白色シルト粒を微量に含む。
IV	10Y6/1	灰色	粘土シルト	あり	あり	5cm大の円礫微量に含む。鉄分含む。
V	5Y6/1	灰色	砂質シルト	あり	なし	3cm程の小礫少量含む。
VI	5Y6/1	灰色	砂礫	あり	ややあり	5cm大の円礫を多量に含む。砂質シルト含む。

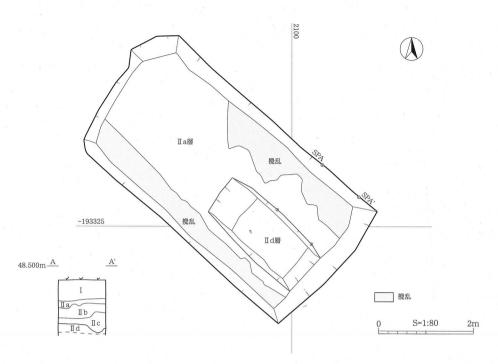
第21図 B区No.5トレンチ平面図・柱状図

No.6 トレンチ (第 22 図、図版 5 - 1 ・ 2)

No.6トレンチは、北西から南東へ長軸を設定した。掘削形状は 3×6 m の長方形で、面積は 18 ㎡である。基本層序の柱状図作成は東壁で行った。現地表下 0.4m 程で段丘礫層(基本層 II 層)を確認した。 II a層上面で遺構確認を行ったが、遺構の検出はない。一部 II d層まで深掘を行った。掘削深度は、1.0m を測る。基本層から遺物の出土はない。

No.6トレンチ基本層土層註記

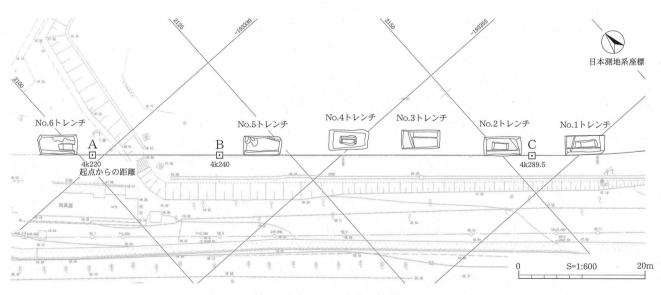
110.0	1.000	坐牛/自工/自	TT PL			
層位	±	: 色	<i>原</i> 兵	土	性	備考
眉似	土色No.	土 色	工具	粘性	しまり	
I	10YR5/6	明黄褐色	砂	なし		円礫・砕石・コンクリート塊を含む盛土層。
IIa	10Y7/1	灰色	砂礫	ややあり		鉄分が多く混入され、灰色の部分と赤褐色の部分あり。砂質シルトを含む。
IIb	5YR5/6	明赤褐色	砂礫	ややあり		径5cm大の円礫を少量、1cm大の小礫を多量に含む砂礫層。砂質シルトを含む。
Пс	5YR5/8	明赤褐色	砂礫	なし	あり	径1cm大の小礫を微量に含む。礫層、鉄分も多く含む。砂質シルトを含む。
IId	2.5Y6/6	明黄褐色	砂礫	なし	あり	径5cm大と径1~2cmの小礫を多量に含む。鉄分多く含む。砂質シルト含む。



第22図 B区 No.6 トレンチ平面図・柱状図

3 まとめ

B区の試掘調査は、No.1 \sim No.6 トレンチの6箇所で行った。調査面積は、108 $\rm m$ である。 遺構確認の結果、いずれのトレンチにおいても遺構は検出されなかった。遺物は5点出土した。



第23図 B区全体平面図

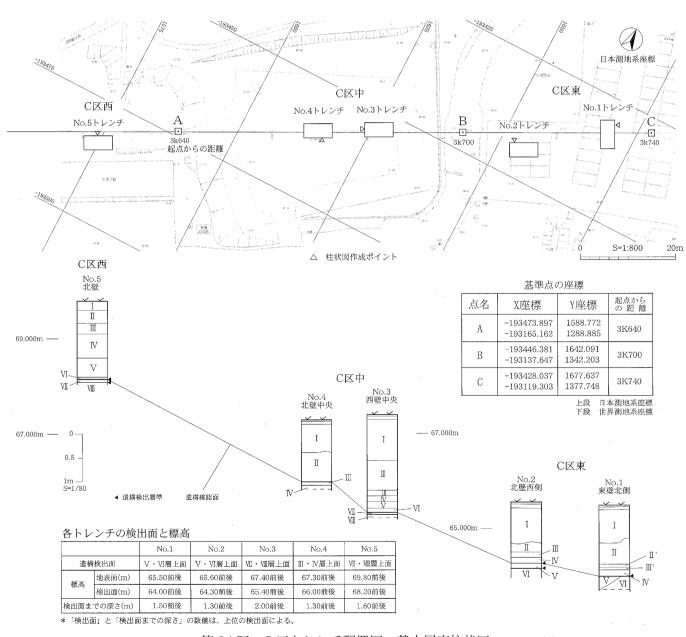
表3 B区出土遺物集計表

D	E.	쥯	法器	Į.	陶器	ţ	石器	土	器		瓦	釗	快製品	j	ザラス	石	部	合	計
ь		点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)
No.2トレンチ	I層			1	2.6								1					1	2.6
No.4トレンチ	V層							1	9.9			-	i i			- 1		1	9.9
グランド	表採	3	20.0													-		3	20.0
合	計	3	20.0	1	2.6	0	0.0	1	9.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0 :	0.0	5	32.5

VI.C区の調査成果

1 調査区の設定および基本層序

C区は調査区を3区に細分し、C区東・C区中・C区西とした。C区東・C区中は共に駐車場内であるため、占有面積を考慮しなるべくセンターラインに沿う形で4箇所設定した。掘削形状は3×6mの長方形を基準とした。トレンチは、東よりNo.1~No.5と名称を付けた。C区の調査面積は102㎡である。C区東・C区中は、舗装部分を重機にて取り壊し、表土の除去を行った。慎重に掘り下げ約1.4m程で粘性の強いシルト質土層を確認し、それより下層を調査対象とした。C区西は、発生土置き場確保のためセンターラインより若干南へ移動する形で1箇所設定した。隣接する既存建物および境界柵の関係により小型の重機により掘削・埋め戻しを行った。基本層位はトレンチごとにローマ数字で表記した。遺構確認面を実線で、遺構が検出された層準を▼で表記した。



第24図 C区トレンチ配置図・基本層序柱状図

2 検出された遺構と遺物

No.1 トレンチ (第 25 図、図版 5 - 5 ・ 6)

No.1トレンチは北西方向に長軸を設定した。掘削形状は 4 × 6m の長方形で、面積は 24 ㎡である。基本層の柱状図作成は東壁と西壁で行った。円礫が多く混入した盛土を除去し、Ⅲ層上面を検出し遺構確認を行った。古い埋設管の攪乱と共に遺構を検出したが平面形が明確にならず、さらに人力による掘り下げを行ない、基本層 V 層上面・VI 層上面にて確認を行った。掘削深度は 1.5m を測った。遺構は土坑 1 基、性格不明遺構 3 基、ピット 3 基が検出された。遺物は陶磁器類・瓦が 18 点出土した。出土遺物の中には 17 世紀前葉~後葉の瀬戸美濃系の小皿、17 世紀後葉の肥前系の瓶・碗を含む磁器が、基本層 V・VI 層中より出土している。

(1) SK1 土坑 (第 25 図、図版 5 - 5 · 6)

調査区東壁北側の給水鉄管攪乱より下、トレンチ断面観察時において $\mathbb{N}\cdot\mathbb{V}$ 層を掘り込むかたちで検出された。 平面形は円形で上端の規模は 0.5m 程で、調査区北東外側へ広がる。出土遺物はない。

(2) P1・2 ピット (第25 図、図版 5 - 5・6)

東壁北寄りで検出された。P1 は南側を大部分攪乱されている。上端径は約0.3mの円形と思われる。東壁断面で観察された埋土は、炭化物を多く含む砂質シルト土の単層である。P2 は東壁断面で観察された。埋土は粘土質シルト土で、やや鉄分を多く含む単層である。出土遺物はない。

(3) P3 ピット (第25図、図版5-5)

調査区南側 SX3 の遺構の平面形内で検出された。SX3 ②層を掘り込み SX3 より新しい。上端径は 0.3m 程で正円形である。埋土は粘性の強い粘土質シルト土である。出土遺物はない。

(4) SX1 性格不明遺構(第25 図、図版 5 - 5)

調査区中央部で検出され、南北を攪乱されている。規模は約2.0m以上を測るが、調査区外へ広がる。平面形は不明である。南側はSX2を切る。出土遺物はない。

(5) SX2 性格不明遺構(第25 図、図版 5-5)

トレンチ中央の一部と、南側の大半を占める攪乱中に残存部のみ確認された。本来はトレンチ中央から南にかけて広がっているものと推測される。北側に位置する SX1 に切られる。出土遺物はない。

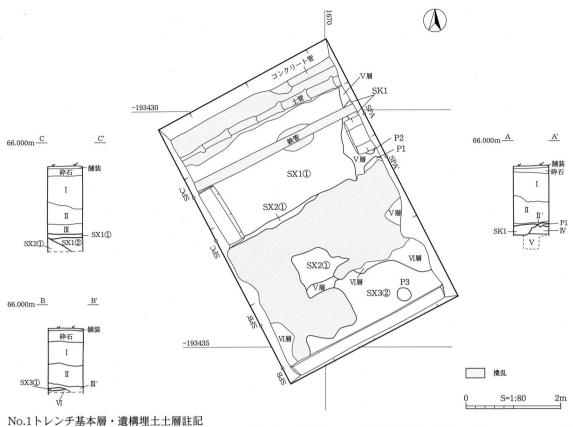
(6) SX3 性格不明遺構(第25 図、図版5-5)

トレンチ南端、SX2の南側で検出された。上端の規模は約3mを測る。断面観察ではV・VI層を掘込んでいることが確認され、平面的にはトレンチの南へ広がる。埋土は炭化物・鉄分を多く含む粘土質シルト土である。出土遺物はない。

(7) 遺構の検出面と時期

遺構は、基本層V層上面・VI層上面で7基検出した。遺構の変遷は、新旧関係から2時期認められる。基本層 V層上面・VI層上面は、出土遺物などから、近世の遺構面と考えられる。

遺構の検出状況からは、トレンチ近辺の遺構密度は高いと推測される。



	1 0 0)		1111-1-1-11			
層位	=	上 色	_L ##	土	性	備考
眉1年	土色No.	土 色	土 質	粘性	しまり	
I	10YR2/1	黒褐色	礫	ややあり		3~5cmの礫主体の層。盛土層。
II	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	怪 5 mm \sim 1 cm灰白色シルトブロックを含む炭化物少量。鉄分を含む。
II'	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	炭化物少量、鉄分含む。径1~2mmの灰白色シルト質粒を多く含む。
Ш	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径1~2cmの小礫を含む。鉄分含み炭化物少量。
Ш'	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径1~2mmの炭化物少量。鉄分を含む。
IV	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径1~2㎜の炭化物少量、鉄分を含む。Ⅲ'層よりやや明るい色調。
V	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	鉄分多く含む。IV層より明るい色調。
VI	10YR4/4	灰黄褐色	砂	ややあり	なし	小礫主体の砂礫層。鉄分含む。
P1	10YR2/3	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	炭化物多く含む。
SK1	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	あり	ややあり	鉄分多く含む。炭化物少量含む。

No.1トレンチ遺構埋土土層註記

园丛		上 色	1. <i>RF</i>	土	性	jate dan
層位	土色No.	土 色	土 質	粘性	しまり	畑 号
SX1①	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	鉄分を多量に含む。径1~2cmの小礫を含む。
SX12	2.5GY2/1	黒色	砂質シルト	ややあり		灰白色シルトブロック多く含む。炭化物少量、鉄分含む。
SX2①	2.5GY3/1	暗オリーブ灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径1~2cmの小礫を含み、木片混入。炭化物少量。
SX3②	7.5GY3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	あり	ややあり	炭化物、鉄分多量に含む。

第25図 C区 No.1トレンチ平面図・柱状図



No.1 トレンチ出土 磁器観察表

遺物番号	water at to	出土	-05 mu	90 00	TES J.D. 6+ 084	法	量 (m	m)	重量	values our 4-		装	飾		胎土色	印・銘	製作		備考
登録番号	図版番号	状況	種別	器種	形状特徴	口径	器高	底径	(g)	成形・調整	絵付/釉薬	文	様	装飾特徵	胎質	など	製作地	製作年代	備考
図26-1 J-9	図版10-5	V層	磁器	大碗	端反形	(126)	(21)	欠損	2.8	ロクロ	染付 透明釉	縁内:匹 外:牡		-	白色	ī	肥前系	19C.前 ~中	
_ J -10	図版10-3	V層	磁器	中碗	端反形	欠損	(16)	欠損	1.0	ロクロ	染付 透明釉	緑内:樹 外:笹		_	白色 ガラス質	-	瀬戸・ 美濃系	19C.前 ~中	
- I -4	図版10-4	V層	陶器	小鉢	- 輪花 (1)	欠損	(18)	欠損	1.8	ロクロ 口縁押圧	- 御深井釉	内:-		_	灰白色	1	瀬戸・ 美濃系	17C.前 ~中	「向付」 二次焼成

第26図 C区No.1トレンチ出土遺物

No.2 トレンチ (第 27 図、図版 5 - 7 ・ 8 、図版 6 - 1 ・ 2)

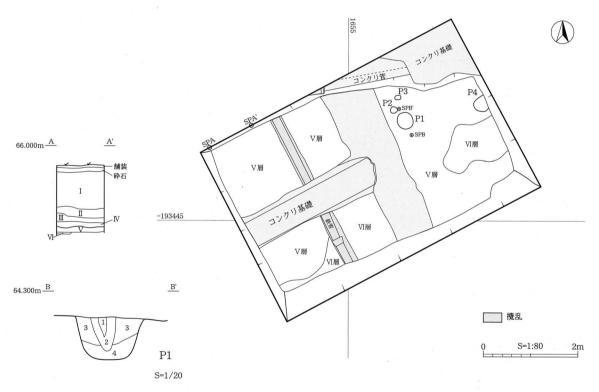
No.2トレンチは北東方向に長軸を設定した。掘削形状は 4×6 m の長方形で、面積は 24 ㎡である。基本層序の柱状図作成は北壁で行った。礫が多く混入した盛土を除去し表層より 1.1m 程下で、皿層上面を検出し遺構確認を行ったが、これより下層にて古い埋設管と構造物の基礎による大きな攪乱が確認された。この攪乱を除去した後、下層へ人力による掘り下げを行い、基本層 V層上面・V1層上面で遺構確認を行った。掘削深度は約 1.3m を測った。遺構は、ピットを 4 基検出した。その中の P1 は半截による断面観察において、粘性の強い粘土質シルト埋土中に明瞭な柱痕が確認されたことで柱穴と判断した。出土遺物は瓦片 2 点である。

(1) P1・2・3・4 ピット (第 27 図、図版 5 - 7、図版 6 - 1・2)

調査区東側のV層上面で検出された。 $P1 \cdot 4$ は正円形で上端径 $0.3 \sim 0.4$ mである。P1 の埋土は 4 層からなり柱痕を残す。 $P2 \cdot 3$ は上端径 0.1 m程で、埋土は粘性のあるシルト質土である。遺物はない。

(2) 遺構の検出面と時期

遺構の検出面のV層上面は、No.1トレンチの基本層VI層上面と対応する。No.2トレンチのVI層上面では遺構は確認されていないが、No.1トレンチとの層位の対応から、No.2の基本層V層上面・VI層上面は、近世の遺構面と考えられる。



No.2トレンチ基本層土層註記

層位	4	上 色	上、粉	土	性	tits tr
眉似	土色No.	土 色	土 質	粘性	しまり	横 考
I	10YR3/1		礫主体の盛土	なし	あり	盛土層。5~10cmの円礫を主体とする。炭化物(1~2mm)を少量含む。
II	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	黄褐色土、灰白色シルトブロック (2~3cm) を多く含む。鉄分を多く含む。
Ш	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	炭化物1~2mmを少量含む。鉄分を含む。
IV	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	炭化物1~3mmを少量含む。鉄分を含む。Ⅲ層より黒みが強く粗い。
V	10YR6/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	鉄分を多く含む。炭化物少量含む。
VI	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	あり	あり	2~3cmの小礫主体の層。鉄分を多く含む。炭化物少量(1~2mm)。

P1 遺構埋土土層註記

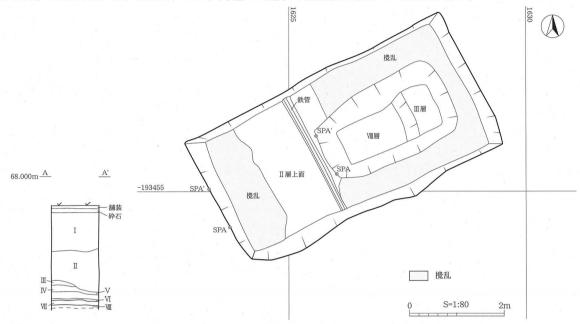
層位		上 色		土	性)## **
眉亚	土色No.	土 色	工質	粘性	しまり	備考
1	10YR2/3		粘土質シルト	あり	ややあり	鉄分を含み、炭化物主体。
2	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	鉄分少量含む。
3	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	鉄分多く含む。炭化物少量。
4	10YR6/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	3層よりやや明るい色調で砂質が3層よりも増す。

第27図 C区 No.2 トレンチ平面図・柱状図・P1 断面図

No.3 トレンチ (第28図、図版6-5・6)

No.3トレンチは、北東方向に長軸を設定した。掘削形状は 3×6 m の長方形で、面積は 18 ㎡である。基本層序の柱状図は西壁で行った。コンクリガラと礫が多く混入した盛土を除去し、表層より 1.5m 程下で II 層上面を検出し、遺構確認を行った。しかし、II 層もまた古い埋設管と構造物の基礎敷設の攪乱層であり、一部を重機により掘り下げ、断面観察において基本層 III 層~ III 層を確認した。掘削深度は約 2 mを測った。遺構の検出はない。遺物は磁器が 1 点出土した。

No.3 トレンチでは遺構の検出はないが、No.1・2 トレンチの基本層 V 層・V 層と対応する基本層 V 層・V 層と対応する基本層 V 確認された。このことから、No.3 トレンチ周辺にも近世の遺構面が広がる可能性がある。



No.3トレンチ基本層土層註記

110.0	1 1 1)	本4/自工/自	HTHE			
層位		上 色	土質	土	性	備考
	土色No.	土 色	上貝	粘性	しまり	-
I	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径3~5cm程の円礫多量。10~20cmの礫も見られる。盛土。
II	10YR6/8	明黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径5~10cm程の円礫を少量含む。灰白色シルトブロックを少量含む。盛土。
Ш	7.5YR6/8	橙色	砂質シルト	ややあり	ややあり	鉄分を多く含むため黄色っぽい。灰白色シルトブロック多量に含む。
IV	2.5Y6/3	浅黄色	粘土質シルト	あり	あり	鉄分少量含む。灰白色シルトブロック少量含む。
V	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	あり	あり	鉄分多量に含む。径1cm程度の灰白色シルトブロックも見られる。
VI	2.5Y7/3	浅黄色	粘土質シルト	あり	あり	鉄分多量に含む。径1~2mmの灰白色シルト粒を少量含む。
VII	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	鉄分少量含む。径1~2mmの灰白色シルト粒少量。シルトブロックも見られる。
VIII	2.5Y7/2	灰黄色	砂質シルト	あり	あり	鉄分を少量含む。径1~2mmの灰白色シルト粒多量に含む。

第28図 C区 No.3トレンチ平面図・柱状図

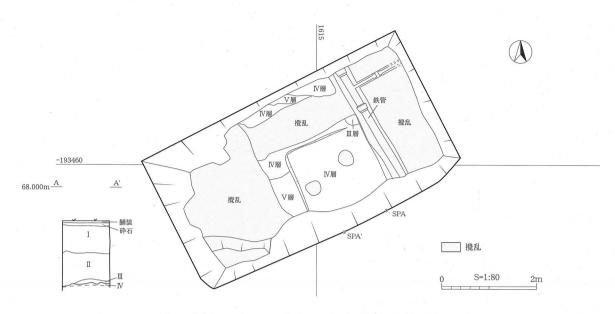
No.4 トレンチ (第29 図、図版6-7・8)

No.4トレンチは北東方向に長軸を設定した。掘削形状は 3×6 m の長方形で、面積は 18 ㎡である。基本層序の柱状図は南壁で行った。舗装を取り壊した後、コンクリガラが多く混入した盛土を除去し、表層より 1.3 m程下でIIII 層上面を検出したが、埋設管等に大きく攪乱を受けていたため、これも除去し、基本層III 層・IV 層上面を検出し、遺構確認を行った。掘削深度は約 1.3m を測った。遺構の検出はない。遺物はない。

No.4トレンチでは遺構の検出はないが、No.1・2トレンチの基本層V層・VI層と対応する基本層II 層・IV層が確認された。このことから、No.4トレンチ周辺にも近世の遺構面が広がる可能性がある。

No.4トレンチ基本層土層註記

屋丛	_	L 色		土	性	Att: :44
層位	土色No.	土 色	土質	粘性	しまり	7/11 考
I	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径3~5cm程の円礫多量。10~20cmの礫も見られる。レンガも見られる。盛土。
II	10YR6/8	明黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	【径5~10cm程の円礫を少量含む。2cm程度の円礫を多量に含む(3cm大の円礫も見られる。盛土)。
Ш	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	鉄分少量含む。径1~2mmの灰白色シルト粒少量。シルトブロックも見られる。
IV	2.5Y7/2	灰黄色	砂質シルト	あり	あり	鉄分を少量含む。径1~2mmの灰白色シルト粒多量に含む。
V	10YR7/1	灰白色	砂質シルト	ややあり	あり	鉄分を多量に含む。砂質シルトであるがかなり砂に近い。平面での確認。



第29図 C区 No.4トレンチ平面図・柱状図

No.5 トレンチ (第30 図、図版7-2~4)

No.5トレンチは、北東方向に長軸を設定した。掘削形状は 3 × 6m の長方形で、掘削面積は 18 ㎡である。基本層序の断面図・柱状図作成は北壁で行った。地表面より 0.4m 程下のⅢ層上面で遺構確認したが遺構の検出はなく、下層への掘削を進め、基本層Ⅲ層上面・Ⅲ層上面で遺構確認を行った。掘削深度は約 1.6m を測った。遺構は性格不明遺構を 4 基検出した。遺物は 15 点出土した。その内容は、17 世紀後葉の肥前系碗・香炉などを含む近世の陶磁器類・瓦片が主である。

(1) SX1 性格不明遺構(第30 図、図版7-3)

調査区北西の角、呱層上面で検出された。上端規模 1m 程の不整円形で調査区外への広がりを見せる。埋土は、白色シルトブロックと鉄分を多く含む砂質シルト土である。遺構確認面からの遺物の出土はないが直上の基本層より近世の陶磁器が数点出土しており、遺構に関わる遺物の可能性もある。

(2) SX2 性格不明遺構 (第30 図、図版7-3)

(3) SX3 性格不明遺構(第30 図、図版7-3·4)

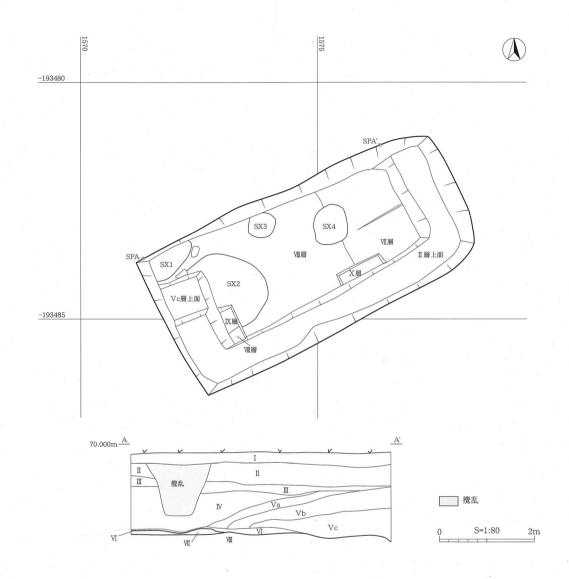
調査区中央北壁下、垭層上面で検出された。上端規模 0.6m 程の円形を呈する。埋土は炭化物、白色シルトブロックを多く含む砂質シルト土である。遺物の出土はない。

(4) SX4 性格不明遺構 (第30 図、図版7-3)

調査区中央、W・W層上面で検出された。上端規模 0.9m 程の不整円形で調査区西側への広がりを見せる。埋土は $3\sim 5$ cm大のシルトブロックが少量混入した砂質シルト土である。遺物の出土はない。

(5)遺構の検出面と時期

遺構は、基本層図層と図層上面で4基の性格不明遺構が検出された。そのうち、SX1 は北壁の観察から掘り込み面は図層上面であること、SX4 は図層と図層上面で検出されていることから、遺構面は図層上面と図層上面の2時期ある。基本層図層上面・図層上面は、No.1・2 トレンチの基本層 V層上面・VI層上面にそれぞれ対応すること、遺物は図層から近世の磁器が出土していることから、近世の遺構面と考えられる。



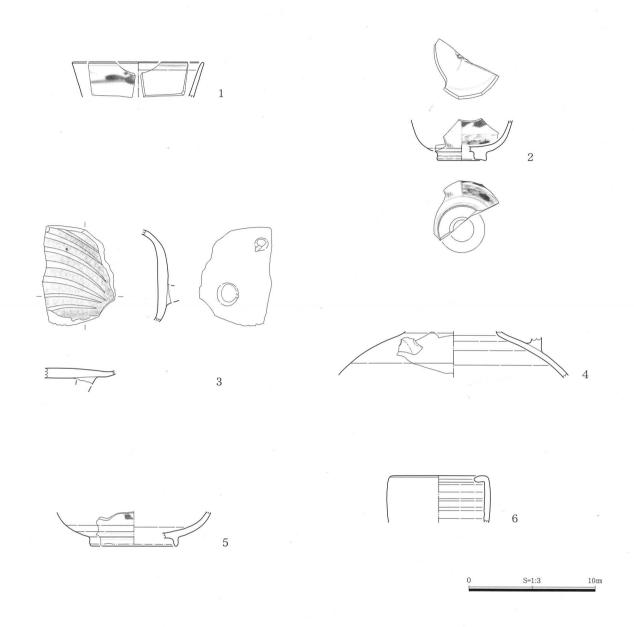
No.5トレンチ基本層土層註記

140.5	トレンフ	一	注记			
層位		上 色	土質	土	性	備考
層位	土色No.	土 色	上貝	粘性	しまり	TUHE 45
I	10YR2/1	黒色	現表土	なし	なし	
II	10YR5/6	黄褐色	盛土	なし	ややあり	径5~10cmの円礫を多く含む。白色シルトブロックが多く混入する盛土層。
III	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径2~3cmの礫を多く含む。砂質シルトが主体。鉄分多く含む。
	10YR5/4	にぶい黄褐色	盛土	ややあり	なし	径3~5cmの砂を主体とする盛土。砂質シルトブロックを多く含む。
	10YR4/6		砂	なし	ややあり	粘土質のシルトブロック(1~2cm)を多く含む。鉄分少量。
	10YR4/4	褐色	盛土	ややあり	ややあり	礫の混入がやや多く、黒みがかった色調。
	10YR4/4	褐色	盛土	ややあり	あり	径2~5cmの礫が多く混入。
	10YR5/6		粘土質シルト	ややあり	あり	径1~2cmの礫混入。白色シルトブロック混入。鉄分少量。
VII	10YR5/4	にぶい黄褐色			あり	鉄分多く含む。粘土質シルトであるが、砂質シルトも含まれている。
	10YR6/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	鉄分多く含む。径2~3mmの炭化物粒も混入。
IX	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	鉄分、砂質シルトを多く含む。
X	7.5 Y 7/2	灰白色	粘土質シルト	あり	ややあり	鉄分多く含み、砂質シルト微量。

No.5トレンチ遺構埋土土層註記

110.0) [レノノ	/ 退佣性工具	二月二二			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
層位		上 色	上后所	土	性	備考
. 唐1公	土色No.	土 色	土 質	粘性	しまり	備考
SX1	10YR7/4	にぶい黄橙色	砂質シルト	ややあり	あり	白色のシルトブロック(径2~3cm)を多量に含む。鉄分多く含む。
SX2	10YR6/6	明黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	鉄分を多く含む。炭化物少量。径5~10cmの礫混入。
SX3	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	あり	ややあり	径2~3cmの炭化物が多く混入。白色シルトブロック径3~5cmの混入。鉄分少量。
SX4	10YR6/4	にぶい黄橙色	砂質シルト	ややあり	あり	鉄分を多量に含む。径2~3mmの炭化物少量。径3~5cmのシルトブロック少量混入。

第30図 C区 No.5 トレンチ平面図・北壁断面図



No.5 トレンチ出土 磁器・陶器観察表

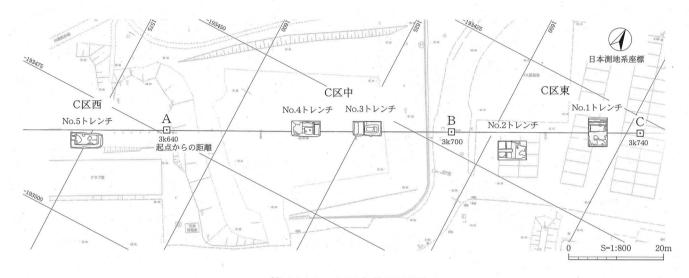
貴物番号		出土	種別	器種	形状特徴	法	量 (m	m)	重量	成形・調整		装 飾		胎土色	印·銘	製	作	fette -day
登録番号	凶版番号	状況	程历リ	裕 悝	用54人补于190	口径	器高	底径	(g)	DX.775 · 词司验	絵付/釉薬	文 様	装飾特徵	胎質	など	製作地	製作年代	備考
⊠31-1 J -11	図版10-6	IV層	磁器	中碗	端反形	(104)	(28)	欠損	6.6	ロクロ	染付 透明釉	緑内:横線二条 外:草花文	-	白色 ガラス質	-	瀬戸・ 美濃系	19C.前 ~中	
図31-2 J -12	図版10-7	IV層	磁器	小碗	端反形 蛇の目高台	欠損	(32)	(38)	20.7	ロクロ 蛇の目高台	染付 透明釉	見込:花文 外:漢詩·山水文	_	白色	-	肥前系	19C.前 ~中	内・外:焼継あり
図31-3 I -5	図版10-8	IV層	陶器	小皿	変形	欠損	(24)	欠損	51.3	型押,足貼付 底目跡(1)	- 御深井釉	内:- 外:-	型押	灰白色	-	瀬戸・ 美濃系	17C.中 ~後	
⊠31-4 I -6	図版10-10	IV+Va層	陶器	土瓶	丸形か	欠損	(37)	欠損	34.0	ロクロ 耳貼付	- 灰(白濁)釉	内:- 外:-		灰白色	-	大堀 相馬系	18C.後 ~19C.前	
⊠31-5 J -13	図版10-13	VII層	磁器	蓋物	腰張形	欠損	(28)	(70)	12.6	ロクロ 削り高台	染付 透明釉	`内: - 外: 熨斗目文	=	白色		肥前系	18C.中 ~後	
⊠31-6 J −14	図版10-14	VII層	磁器	香炉	内湾形	(78)	(37)	欠損	7.9	ロクロ	- 青磁釉	内:- 外:-	内面無釉	灰白色	_	肥前系	17C.中 ~後	
 J −15	図版10-9	IV層	磁器	燗徳利	-	欠損	(23)	欠損	1.8	ロクロ	染付 透明釉	内:- 外:草花文	-	白色 ガラス質	-	瀬戸・ 美濃系	19C.前 ~中	
– J −16	図版10-11	IV層	磁器	小皿	丸形	欠損	(13)	欠損	2.3	ロクロ	透明釉	内:- 外:-	-	白色	-	肥前系 波佐見	17C.中 ~後	
– I –7	図版10-12	VIII/III	陶器	中碗	-	欠損	(23)	欠損	2.1	ロクロ	- 灰(白濁)釉	内:- 外:-	-	灰白色	-	大堀 相馬系	18C.後 ~19C.前	
– J −17	図版10-15	IV層	磁器	中瓶	辣並形	欠損	(56)	欠損	14.9	ロクロ	染付 透明釉	内:一 外:菊花流水文	-	白色	- "	肥前系	18C.前 ~中	

第31図 C区No.5トレンチ出土遺物

3 まとめ

C区の確認調査は、 $No.1 \sim No.5$ トレンチの5箇所で行った。調査面積は、 $90\,\mathrm{m}$ である。

遺構確認の結果、No.1・2・5トレンチにおいて遺構が検出された。No.1トレンチでは、7基の遺構が基本層 V層上面とVI層上面で検出された。V層・VI層上面は近世の遺構面と考えられ、それに対応する遺構面はNo.2~ No.5トレンチにおいても確認され、近世の遺構も検出されている。これらの遺構群には、2時期にわたる検出面 および同一検出面における新旧関係が認められること、各トレンチとも近世の遺物が遺構面の上下で出土している ことから、C区には、ほぼ全域に近世の遺構が存在し、2時期以上の変遷が考えられる。



第32図 C区全体平面図

表4 C区出土遺物集計表

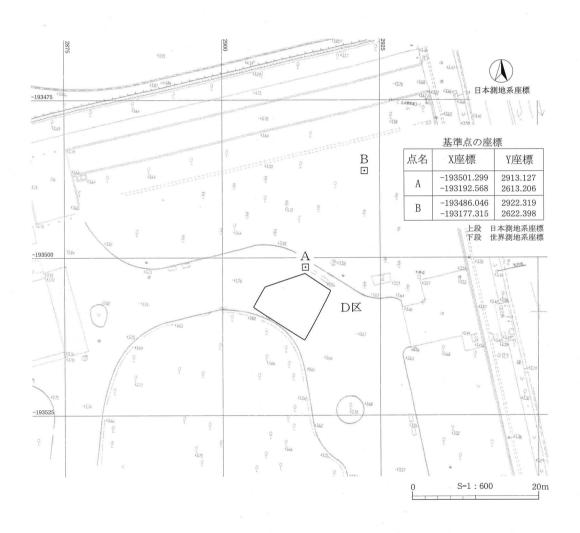
C	区	磁		1	陶器	切	器	=	上器		瓦	鈖	製品	7	ブラス	,	石器	É	信台
		点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)
No.1トレンチ	I層	1	4.6	. 1	44.7	i		i									1	2	49.3
	V層	2	3.8	1	1.8			1	22.5	4	2,796.4							8	2,824.5
	V·VI層上面	1	5.0							7	822.9							8	827.9
No.2トレンチ	Ⅱ層	11 1								1	144.3						1	1	144.3
	川層									1	63.9							1	63.9
No.3トレンチ	Ⅱ層	1	2.6					1										1	2.6
No.5トレンチ	Ⅲ層	1	2.4	1	11.7	i			los regions and the									2	14.1
	IV層	6	52.9	2	68.3	[1	236.1							9	
	Va層			1	17.0]						r	1	17.0
	VII層	2	20.5														r	2	20.5
	WII層			1	2.1													1	2.1
合	計	14	91.8	7	145.6	0	0.0	1	22.5	14	4,063.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	36	4.323.5

WI.D区の調査成果

1 調査区の設定および基本層序

計画路線の関連工事予定区域に調査区を設定した。

基本層序は盛土および旧表土層を I 層、段丘礫層(中町段丘)を基本層 I 層とI 層と I 層の間には、遺構埋土が調査区全域に認められる。調査区内には、座標に沿った 5 m グリッドを設定し、状況に応じてグリッド別に遺物を取り上げた(第 34 図)。



第33図 D区調查区配置図

2 検出された遺構と遺物

D区の掘削形状は縦 7m、横 10m の不整六角形で、面積は 70 ㎡である。基本層序の断面図作成は、主に北壁で行った。盛土を除去した後、地表面より $0.8\,\mathrm{m}$ 程下で円礫の並びを検出したが、遺構と断定するには至らなかった。下層への掘削を行い、地表面より $1.1\,\mathrm{m}$ 程の暗褐色シルト質土上面で遺構確認を行った。その結果、調査区外へも広がる大型の遺構である SX1 を検出した。その後の調査で、SX1 は $2\,\mathrm{b}$ 期の遺構と考えられたことから、東西ベルトを設定して確認し、SX1A と SX1B とした。SX1A・1B の時期は、出土遺物から幕末~明治の可能性が考えられたことから、それらの完掘後、基本層 II 層(段丘礫層)上面で確認された性格不明遺構 SX2・3 とピット 3 基の調査を行った。北壁の断面観察においては、遺構の埋土と考えられる層を検出し、SX4・SX5 とした。

D区の出土遺物は近世から幕末・明治にかけての磁器・陶器・瓦等総数 1,018 点である。

(1) SX1A 性格不明遺構(第34図、図版7-7・8、図版8-3・4)

I層下面で検出された。調査区東半部に広がる大型の遺構である。西側は SX1B を切る。底面は基本層 II 層(段丘礫層)を掘り込み、遺構の規模は東西 5.0m、南北 6.0 m以上で、調査区外へも広がる。深さは約 1.0 mである。埋土は円礫を多く含むシルト質土である。また、SX1A ①層は別遺構の埋土である可能性も考えられる。遺物は 380 点出土した。幕末期から明治にかけての陶磁器類が主で、検出遺構の中で最も多い。碗や皿の他に火入や花生、燗徳利や散り蓮華などを含む豊富な品種組成がみられる(第 36 図 $-1 \sim 4$ 、第 37 図 -1)。遺構の時期は、幕末 から明治にかけての可能性がある。

(2) SX1B 性格不明遺構(第34図、図版7-7・8、図版8-1~3)

I層下面で検出された。調査区西半部に広がる大型の遺構である。東側をSX1Aに切られる。遺構の規模は東西 6m、南北 6 m以上で、調査区外へも広がる。深さは約 0.5m である。埋土は円礫が多く混入した黒味の強いシルト質土である。遺物は 170 点が出土した。幕末から明治にかけての在地系の陶器、瀬戸美濃系の小碗、擂鉢や土鍋の破片が多い(第 37 図 - 2 ・3 、第 38 図 - 1)。遺構の時期は、幕末から明治にかけての可能性がある。

(3) SX2 性格不明遺構 (第34·35 図、図版7-7·8、図版8-5)

基本層 II 層上面で検出された。遺構の規模は長軸 3m、短軸 2.3m の不整楕円形である。深さは約 0.4m である。埋土は 3 層からなり円礫が多く混入する黒褐色の砂質シルト土である。遺物は 97 点出土した。遺物のなかには、細片であるが中国系の五彩手鉢片、17 世紀後葉~ 18 世紀前葉の瀬戸美濃系の五寸皿・水滴、在地系の灯明具と思われる土器などがある(第 37 図-4・5、第 38 図-2・3)。遺構の時期は、近世の可能性がある。

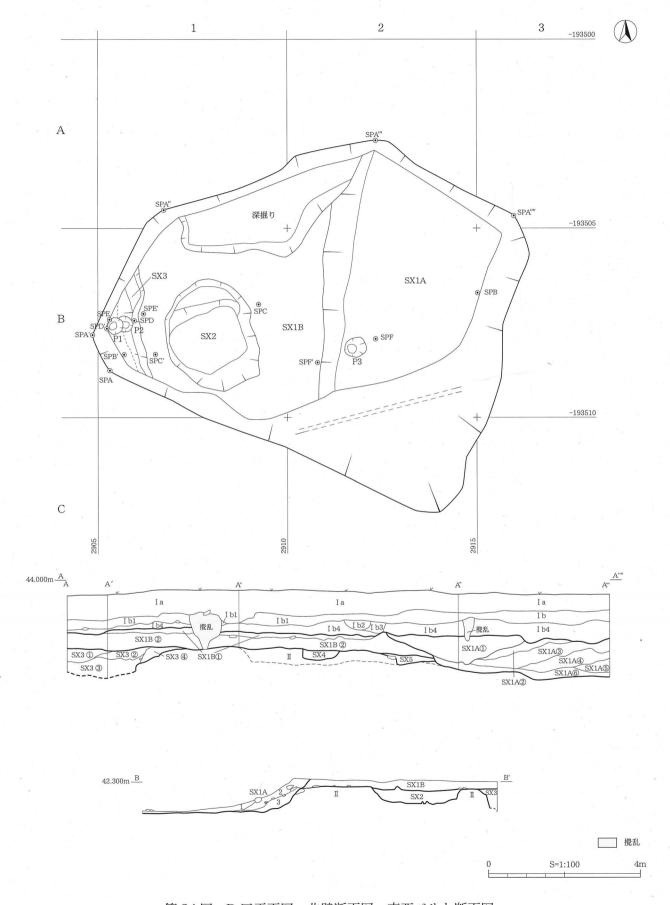
(4) SX3 性格不明遺構(第34·35 図、図版7-7、図版8-6)

基本層Ⅱ層上面で検出した。遺構の規模は東西1.0 m、南北2.0 mで調査区西側へ広がる。深さは約1.0 m以上で、底面は確認できなかった。埋土は2層で黒褐色のシルト質土である。遺物は2点出土した。在地系の底部に穿孔がある灯明具が出土している。

(5) P1・2 ピット (第34・35図)

SX3 の埋土上面で検出した。共に上端径 0.4m 下端 0.2m 程で、P1 は P2 を切っている。遺物の出土はない。 (6) P3 ピット(第 $34\cdot 35$ 図、図版 7-7、図版 8-7)

調査区南中央、SX1A の底面で検出した。上端径 0.5m、下端 0.25m で深さ 0.7m を測る。木質の遺存する柱痕が確認された。遺物は 1 点出土した(第 38 図 - 4)。これは 18 世紀 \sim 19 世紀の堤焼と思われる擂鉢片である。



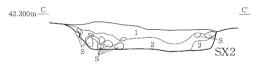
第34図 D区平面図・北壁断面図・東西ベルト断面図

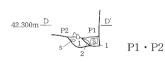
D区 北壁基本層・遺構埋土土層註記

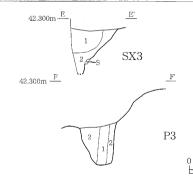
		1 /E	/ PI PJ			
層位	土	色	1. 1919	土	性	idde -fy
間包	土色No.	土 色	土質	粘性	しまり	備 考
Ιa	10YR2/3	黒褐色	シルト	なし	なし	盛土の上層、砂層、砕石を含む表土。層下部に炭化物を層状に多量含む。
I b1	10YR2/2	黒褐色	シルト	なし	ややあり	径2~3mmの炭化物を多く含む。径2~3cmの円礫を多く含む。 黄褐色粒をブロック状に少量含む。盛土下層。
I b2	10YR2/2	黒褐色	シルト	ややあり	ややあり	径5cmの黄褐色粘土ブロック主体の層。レンガの混入。径2~3mmの炭化物を少量含む。
I b3	10YR2/3	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径5~10cmの礫を多く含む。径5~10mmの焼土・炭化物粒をやや多く含む。
I b4	10YR2/2	黒褐色	シルト	ややあり	なし	径2~3cmの風化した礫を少量含む。径5~10mmの炭化物を少量含む。
a	10YR3/3	暗褐色	シルト	ややあり	ややあり	径3~10㎝の礫を少量。黄褐色土粒3~5㎜を多量含む。 焼土・炭化物径2~5㎜を少量含む。
SX1A	10YR2/2	黒褐色	シルト	ややあり	なし	径5~10cmの円礫を多く含む。黄褐色土粒を少量含む。
SX1A	10YR2/3	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径5cmの円礫を多く含む。焼土・炭化物粒を多く含む。鉄分を含む。
SX1A ③	10YR3/2	黒褐色	シルト	ややあり	なし	径5~10cmの礫を多く含む。黄褐色土シルトブロック径3cm大を多く含む。 炭化物と鉄分を多く含む。
SX1A ④	10YR2/3	黒褐色	シルト	ややあり	なし	径10㎝の礫を少量含む。黄褐色シルトブロックを少量含む。炭化物・鉄分少量含む。
SX1A ⑤	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	径3~5cmの礫を少量含む。鉄分を少量含む。炭化物を微量含む。
SX1B	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径5cmの礫を少量含む。炭化物・焼土粒を少量含む。黄色味がかった層。
SX1B ②	10YR2/3	黒褐色	シルト	ややあり	あり	径3~5cmの礫を少量含む。灰白色粘土粒、黄褐色粘土粒径5~10mmを少量含む。 炭化物を少量含む。
SX4	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径3~20cmの礫を主体とした層。炭化物少量。基本層Ⅱ層と混合し、酷似しているが明らかに 黒い埋土を持つ。
SX3	10YR2/2	黒褐色	シルト	あり	なし	径1~2mmの焼土・炭化物を少量含む。黄褐色粘土ブロック径5~10mmを少量含む。 径3~5cmの円礫を少量含む。
SX3	10YR3/3	暗褐色	シルト	あり	あり	径3~5cmの円礫を少量含む。炭化物・焼土粒を少量含む。 黄褐色粘土ブロック5~10mmを少量含む。SX3①よりやや明るい。
SX3	10YR2/3	黒褐色	シルト	ややあり	あり	径3~5cmの礫を微量混入する。焼土・炭化物・鉄分粒を少量含む。 灰白色シルトブロック少量混入。
SX3	10YR3/3	暗褐色	シルト	ややあり	あり	径3~5cmの礫を少量混入す。炭化物微量含む。鉄分を多く含む。
П	10YR4/4	褐色	砂礫	なし	なし	径1~20cmの礫を主体とした層。混入物の少ない段丘礫層(中町段丘)。
SX5	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径2~3cmの礫を少量含む。径2~3mmの焼土・炭化物粒を多く含む。鉄分を含む。

SX1A・1B 東西ベルト土層註記

層位	土	色	_L ##	土性		Hts -ty.
加加工	土色Na	土 色	土質	粘性	しまり	一
SX1A-1	10YR2/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	径1~2mmの炭化物少量。径3~5mmの鉄分粒を多く含む。径3~5cmの円礫混入。
SX1A-2	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径1~2mmの炭化物微量。焼土粒少量。径3~10cmの円礫を混入。
SX1A-3	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径1~2mmの炭化物粒、焼土粒を少量。径2~3mmシルト粒を少量。2~3cmの礫を混入。
SX1B	10YR2/2	里褐色	シルト	あり	ややあり	径25cm大の平な円礫が上層に集中する。
GZELE	1011(2) 2		7 / 1	000	1	焼土、炭化物粒少量。灰白色粒子を多く混入する







S=1:60

2m

SX2遺構埋土土層註記

	層位		土色	土質	土	性	備 老
	/智1以.	土色No.	土 色	上月	粘性	しまり	· 一
L	1	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径2~3cmの円礫を少量、径2~3mmの炭化物を少量、灰白シルト質粒径1~2mmを少量含む。
L	2	10YR2/3	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径3~5cmの円礫を多く含む。炭化物径2~3mmを少量含む。灰白色ブロックを多く含む。
L	3	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径5~20cm大の円礫多く混入。鉄分少量含む。

SX3遺構埋土土層註記

層位	-	上 色	+ 質	土	性	MHz 4v
/曹155	土色No.	土 色	工質	粘性	しまり	帽
1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	あり	径3~5cmの円礫を微量含む。酸化鉄粒を極微量含む。灰白色土粒子径2~4mmを少量含む。
2	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	灰白色土粒子径1~2mmを全体に極微量含む。酸化鉄粒を微量含む。

P1遺構埋土土層註記

層位	. 土色	_L ##	土	性	Htty
789 13	土色No. 土色	上貝	粘性	しまり	偏 考
1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径2~3cm大の黄褐色シルトブロックを多く含む。径5cmの礫を含む。炭化物微量。
2	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径1~2mmの灰白色シルト粒を少量含む。径1~2mmの炭化物を微量含む。

P2遺構埋土土層註記

ss (+	土 色	_L 66	土	性	Ht. +	1
層位	土色Na 土 色	工員	粘性	しまり	網 考	
1	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径5cm大の礫を含む。径5~10mm炭化物少量、灰白色シルト粒少量含む。ピット1-2よりややしまる	1

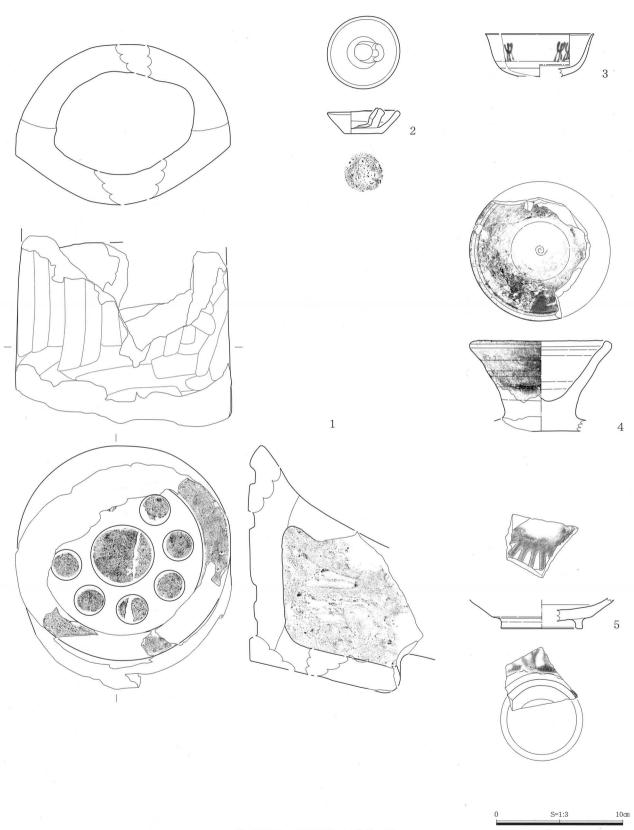
P3遺構埋土土層註記

層位	土 色		.l. 96	土	性	Htt: -42
盾位	土色No.	土 色	工具	粘性	しまり	7個 考
1	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	柱痕、腐蝕した柱材の一部が層内を満たすよう残留する。
2	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	ややあり	径5~10mmの円礫を微量含む、径3~5mmの炭化物粒子を少量。灰白色シルト粒を少量含む。

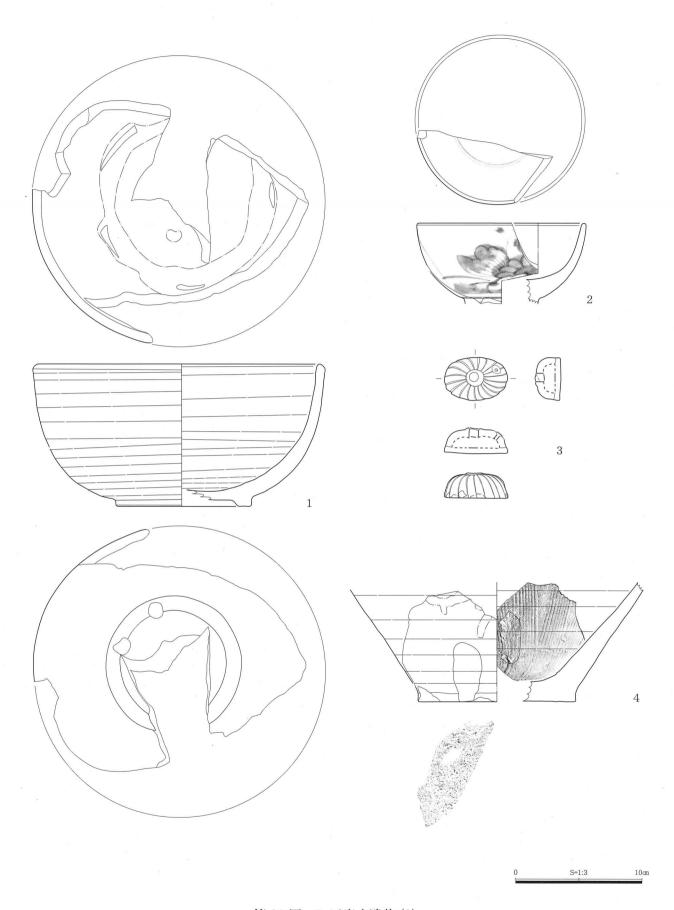
第35図 D区SX2・SX3・P1~3断面図



第 36 図 D 区出土遺物 (1)



第37図 D区出土遺物(2)



第 38 図 D 区出土遺物 (3)

SX1A 出土 磁器・瓦観察表

	* HI II.	HAATILI	البدا عاسك	1/1/2/														
遺物番号		出土	種別	器種	形状特徴	法	量 (m	m)	重量	成形・調整		装 飾		胎土色	印・銘	\$	{作	備考
登録番号	10000000000000000000000000000000000000	状況	1里かり	55 1 <u>m</u>	形化村取	口径	器高	底径	(g)	以及75岁 。 前间3至	絵付/釉薬	文 様	装飾特徴	胎質	など	製作地	製作年代	1 編 考
⊠36-1 J -18	図版10-16	埋土層中	磁器	中鉢	浅丸形 底狭 鍔縁	256	92	123	1,055.0	ロクロ 削り高台	染付 透明釉	内:禽鳥図 外:切枝牡丹 に短冊*	掻き 落とし	白色	底:銘「乾」	肥前系	19C.中 ~後	鍔·緑内·高台:雷 文,*短冊内:辭 山,内面:擦痕
⊠36-2 J -19	図版10-17	埋土層中	磁器	燗徳利	端反形	28	195	65	209.1	ロクロ ベタ底	染付 透明釉	内:- 外:竹林文	コパルト	白色 ガラス質	-	瀬戸・ 美濃系	19 C.後~ (明治~)	底:墨書「針嘉」
図36-3 J-20	図版10-18	埋土層中	磁器	中碗	浅半球形 やや厚め	106.5	49.5	36.5	129.1	ロクロ 削り高台	染付 透明釉	内:- 外:松竹文	-	白色	-	肥前系	18C.後 ~19C.前	
⊠36-4 F-1	図版10-20	埋土層中	瓦	軒丸瓦	_	残存長 54.5	瓦当径 101	瓦当厚 17	157.0	型押・布目 貼付	_	内:- 外:縦三引両	内面布目	暗灰色 ~灰色	-	在地系	neter .	
⊠37-1 H-1	図版10-19	埋土層中	瓦	鳥伏間 瓦	-	残存長 148	瓦当径	瓦当厚 26	1,790.0	型押·布目 貼付		内:- 外:九曜文	内面布目	暗灰色 ~灰色	-	在地系	-	

SX1B 出土 磁器・陶器観察表

遺物番号		出土	種別	器種	形状特徵	法 量 (mm)			重量	成形・調整		装 飾		胎土色	印・銘	製	作	備考
登録番号	図版番号	状況	196,01	nn 196		口径	器高	底径	(g)	カメルク・ 前可芸芸	絵付/釉薬	文 様	装飾特徵	胎質	など	製作地	製作年代	1/11 -15
⊠37-2 I -8	図版11-1	埋土層中	陶器	秉燭	皿形 舌状芯立	58	20	30	28.7	ロクロ・回転 糸切底, 貼付	- 鉄釉	内:- 外:-	全面施釉	赤褐色	_	堤	18C. ~19C.	
⊠37-3 J -21	図版11-2	埋土層中	磁器	小碗	端反形	(86)	(34.5)	欠損	13.9	ロクロ	染付·鉄釉 透明釉	内:- 外:文字文	コバルト	白色 ガラス質	_	瀬戸・ 美濃系	19 C.後~ (明治~)	
⊠38-1 I -9	図版11-3	埋土層中	陶器	中鉢	丸形	(232)	113	108	662.0	ロクロ 削り高台	一 灰釉	内:- 外:-	_	橙褐色	-	堤?	18C. ~19C.	見込:環状に灰釉 を塗布、その上に 目跡 (4) 畳付:目跡(2)

SX2 出土 磁器・陶器・土器観察表

0212	H-1- 10	A100 P	49 10 10		が オス													
遺物番号		出土	種別	器種	形状特徴	法	量(mi	m)	重量	成形・調整		装 飾		胎土色	印・銘	製	作	備考
登録番号	凶版番号	状況	作組かり	谷 悝	形状特徴	口径	器高	底径	(g)	以形・嗣盤	絵付/釉薬	文 様	装飾特徵	胎質	など	製作地	製作年代	備考
⊠37-4 I -10	図版11-4	埋土層中	土器	灯明具	開口形 ベタ底	(112)	(71.5)	欠損	240.3	ロクロ ベタ底		内:- 外:-	-	褐~ 灰褐色	-	在地系	不明	口縁:スス・ タール付着
⊠37-5 I -11	図版11-6	埋土層中	陶器	五寸皿	菊花形	欠損	(25)	(64)	30.5	ロクロ付高台	緑釉 灰釉	内:菊花文 外:菊花文	緑釉流し	黄白色	_	瀬戸・ 美濃系	17C.前 ~中	見込:擦痕
⊠38-2 J-22	図版11-5	埋土層中	磁器	大碗	丸形 厚め	(134)	(64)	欠損	115.7	ロクロ 削り高台	染付 透明釉	内:一 外:雪持草花文	-	灰白色	_	肥前系 波佐見	18C.中 ~後	くらわんか手
⊠38-3 I −12	図版11-7	埋土層中	陶器	水滴	菊花形	50.5	20.5	34.5	29.8	型押・貼付 ベタ底	一 御深井釉	内:- 外:菊花形	底部無釉	灰白色	_	瀬戸・ 美濃系	17C.前 ~中	注口:欠損
_ J -23	図版11-8	埋土層中	磁器	中碗	浅半球形	103	50	37	89.9	ロクロ 削り高台	染付 透明釉	内・外:氷裂地 菊花文散	-	白色	_	肥前系	18C.後 19C.前	

P3 出土 陶器観察表

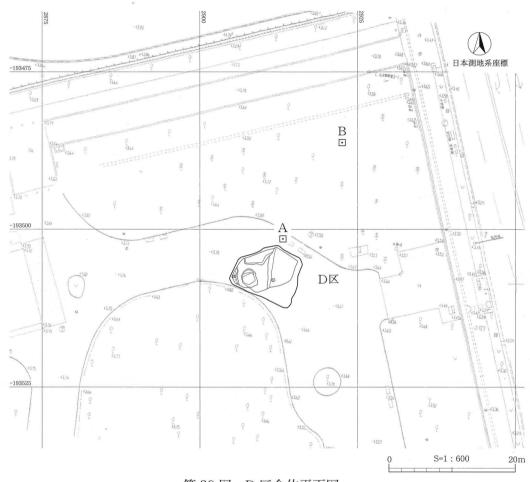
遺物番号	図版番号	出土	種別	器種	形状特徽	法	量 (mr	mm) 重量 ctric cons			装飾				胎土色	印·銘	印・銘 製 作		備者	
登録番号	Parkers	状況	128,J1	140° 138	//21/N NT 18X	口径	器高	底径	(g)	成形・調整	絵付/釉薬	文	様	装飾特徴	胎質	など	製作地	製作年代	1ATE 45	
⊠38-4 I −13	図版11-9	埋土層中	陶器	擂鉢	ベタ底	欠損	(95)	(126)	313.7	ロクロロ転糸切底	- 鉄釉	内:-		内面櫛目	赤褐色	_	堤?		櫛目:8条/25mm 幅内壁立ち上がり: 摩滅,内・外:籾団 子跡各(1)	

3 まとめ

D区の試掘調査は、1箇所において行った。調査面積は70㎡である。

遺構確認の結果、遺構は7基検出された。遺物は1,018点出土した。

検出された遺構は、新旧関係から 5 時期にわたる。それらの時期は、 I 層下面で検出された $SX1A \cdot 1B$ は幕末から明治にかけての時期、 I 層上面で検出された SX2 は近世の可能性も考えられたが、 $SX3 \cdot P1 \cdot 2 \cdot 3$ の時期は不明である。出土遺物は近世から明治にかけて多数出土しており、調査区周辺には近世の遺構が存在する可能性があるが、調査面積が狭いこともあり、今後の課題とされる。



第39図 D区全体平面図

表 5 D区出土遺物集計表

D	区	磁	法器		陶器	炸	6器		上器		瓦	鈏	製品	カ	ラス	石器		合 計	
D	<u>K</u>	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)
基本層	I層	189	3,543.3	86	6,349.9	1	59.0			86	24,285.0			1	59.2			363	34,296.4
P3	2層			1	313.7	- 1												1	313.7
SX1A		250	4,240.8	49	2,787.6	i		4	272.1	37	13,193.5	3	1,466.5	6	94.7	- 1		349	22,055.2
	SX1A3					[1	1,512.0					[1	1,512.0
	SX1A®	16	76.6	6	22.7					6	1,302.2			2	5.1	[30	1,406.6
SX1B		40	309.5	37	1,013.2	- 1		7	199.5	48	8,160.7					1	11.8	133	9,694.7
	SX1B2	7	46.9	16	848.2	[2	296.7	10	2,317.2					1	97.5	36	3,606.5
	SX1B3			1	87.1]					[1	87.1
SX2				3	12.8	- 1			-							- 1		3	12.8
	1層	10	45.8	7	68.3			2	55.5	1	71.9					[20	241.5
	2層			2	47.9			1	7.9	7	1,321.2					[10	1,377.0
	3層	10	288.8	26	1,067.2	2	399.3	4	374.9	22	3,943.6			[[64	6,073.8
SX3	SX3②					- 1				1	132.4							1	132.4
	SX33					[1	22.6					[[1	22.6
遺構外						- 1						1	5.2					1	5.2
	南壁	2	15.8	1	9.6			1	18.2					[4	43.6
合	計	524	8,567.5	235	12,628.2	3	458.3	22	1,247.4	219	56,239.7	4	1,471.7	9	159.0	2	109.3	1.018	80,881.1

Ⅷ.総括

この調査は、高速鉄道東西線建設事業に伴う確認・試掘調査として、仙台城跡およびその隣接地、川内A遺跡他を対象として行った。調査区はA~D区の4箇所を設定し、野外調査は平成16年6月14日から9月17日に行った。調査面積は448㎡である。

1 各区の検出遺構および出土遺物

A区(仮称国際センター駅部:川内A遺跡)

No.1 ~ No.6 トレンチにおいて調査を行い、近世の遺構面を検出した。遺構は井戸跡 1 基、土坑 2 基、性格不明遺構 6 基、ピット 8 基が検出された。遺物の出土総数は 170 点であり、陶磁器など年代は 17 世紀~ 19 世紀を主とする。調査区周辺には近世の遺構が展開していることが考えられる。また、縄文土器が出土したことから、縄文時代の遺構が存在する可能性もある。

B区(扇坂トンネル部:仙台城跡隣接地)

No.1 ~ No.6 トレンチにおいて調査を行ったが、遺構は検出されなかった。遺物の出土総数は5点である。

C区(亀岡トンネル部:仙台城跡)

No.1 ~ No.5 トレンチにおいて調査を行い、近世の遺構面を検出した。遺構は性格不明遺構 7 基、土坑 1 基、ピット 7 基が検出された。遺物の出土総数は 36 点であり、陶磁器などの年代は 17 世紀 \sim 19 世紀を主とする。調査区周辺には近世の遺構が展開していることが考えられる。

D区(仮称西公園駅部隣接地)

調査区は1箇所設定した。遺構は性格不明遺構4基、ピット3基が検出された。遺物の出土総数は1,018点である。陶磁器などの時期は近世~明治にかけてである。調査区周辺には近世の遺構が存在する可能性はあるが、調査面積が狭いこともあり、今後の課題とされる。

2 遺構の検出面と時期

調査の結果、4箇所の調査区のうち、A区とC区には近世の遺構面が確認され、検出された遺構から、周辺にこの時期の遺構の展開が考えられた。B区では遺構は確認されなかった。D区では明確な近世の遺構は確認されていない。

表 6 確認遺構数集計表

⇒ı	周査区			Α	区				B区							C区				
II)	四旦区	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5		
	SK	2	1									i !		1		i !	!			3
	SX	3	1	1	1	2	1					-	! !	3			1	4	4	17
	SE		1		1	1					1	!	1		!	1	1			1
	Р			2	3	3						-	1	3	4	1			3	18
	合計	5	!	2	4	6						1		7	4			4	7	39

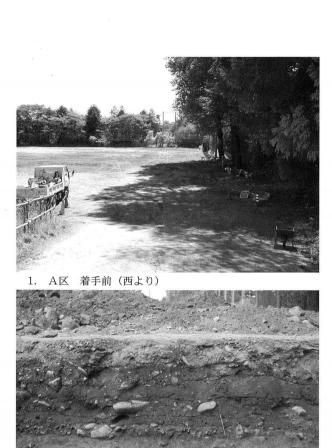
註

- (1) 松本秀明 2001 「地形から街を読む-地形分類のみかた-」『仙台空中写真集-杜の都のいま、むかし』 仙台市環境局
- (2) 今野印刷 1994 『絵図・地図で見る仙台』に加筆
- (3) 藤沢敦氏(東北大学埋蔵文化財調査研究センター)のご教示による。なお、藤沢氏には他のトレンチにおいても近世の遺構面について、ご教示いただいた。
- (4) 註(3)に同じ

参考文献

仙台市教育委員会 2002 『仙台城跡 1 -平成 13 年度調査報告書 - 』(仙台市文化財調査報告書 259 集) 仙台市教育委員会 2003 『仙台城跡 2 -平成 14 年度調査報告書 - 』(仙台市文化財調査報告書 264 集) 仙台市教育委員会 2004 『仙台城跡 3 -平成 15 年度調査報告書 - 』(仙台市文化財調査報告書 270 集) 仙台市教育委員会 2004 『仙台城跡 4 -平成 15 年度調査報告書 - 』(仙台市文化財調査報告書 271 集) 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1992 『東北大学埋蔵文化財調査年報 4・5』 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1997 『東北大学埋蔵文化財調査年報 8』 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1999 『東北大学埋蔵文化財調査年報 11』 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2000 『東北大学埋蔵文化財調査年報 11』 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2000 『東北大学埋蔵文化財調査年報 13』 仙台市博物館 2002 『仙台市博物館調査研究報告 第 22 号 平成 13 年度』 九州近世陶磁器学会編 2002 『九州近世陶磁器学会 10 周年記念九州陶磁の編年』 多治見市教育委員会 1993 『美濃窯の焼 特集写真で見る美濃焼の歴史』 東北陶磁文化館 1987 『東北の近世陶磁』 矢部良明ほか編 2002 『角川日本陶磁大辞典』 角川書店

写 真 図 版



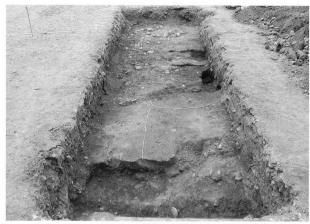
3. A区 No.1トレンチ東壁断面 (西より)



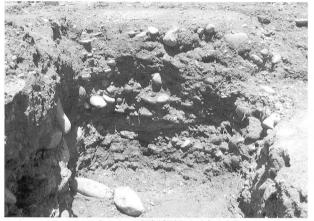
5. A区 No.1トレンチ SK 1 石器出土状況



7. A区 No.2トレンチ北壁断面(南より)



2. A区 No.1トレンチ M層上面遺構検出状況 (南より)



4. A区 No.1トレンチ深掘部断面(南より)



6. A区 No.2トレンチIX・XI層上面確認状況 (東より)

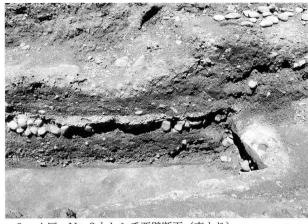


8. A区 No.3トレンチ2厘上面遺構検出状況(南より)

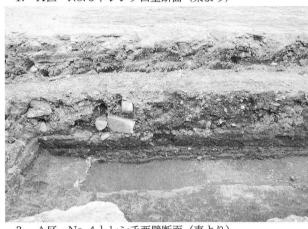
図版1 A区(1)



1. A区 No.3トレンチ西壁断面 (東より)



2. A区 No.3トレンチ西壁断面 (東より)



3. A区 No.4トレンチ西壁断面 (東より)



4. A区 No.4トレンチ西壁断面 (東より)



5. A区 No.4トレンチXI層上面遺構検出状況(南より)



6. A区 No.5トレンチXII・XIV層上面遺構検出状況(東より)

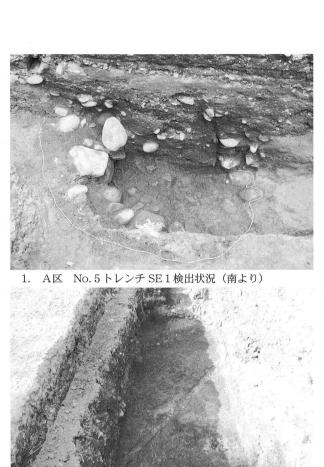


7. A区 No.5トレンチ北壁断面(南より)



8. A区 No.5トレンチ北壁断面(南より)

図版 2 A区 (2)





5. A区 完了(西より)



7. B区 No.1トレンチV層上面確認状況(南東より)



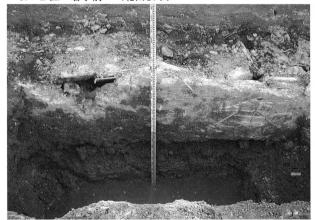
2. A区 No.5トレンチP1~3·SX2遺構検出状況(西より)



4. A区 No.6トレンチ東壁断面(西より)



6. B区 着手前 (北西より)



8. B区 No.1トレンチ南壁断面(北より) 図版3 A区(3) · B区(1)



1. B区 No.2トレンチⅡ・VI層上面確認状況(南東より)



2. B区 No.2トレンチ南壁断面(北より)



B区 No.3トレンチⅡ・V層上面確認状況(南東より)



B区 No.3トレンチ北壁断面(南より)



5. B区 No.4トレンチⅡ・Ⅲ・V層上面確認状況(南東より) 6. B区 No.4トレンチ南壁断面 (北より)





7. B区 No.5トレンチⅡ・V·VI層上面確認状況(南東より)



8. B区 No.5トレンチ東壁断面状況(西より)

図版4 B区(2)



1. B区 No.6トレンチⅡa・Ⅱd 層上面確認状況 (北西より) 2. B区 No.6トレンチ東壁断面 (西より)





3. B区 完了(北西より)

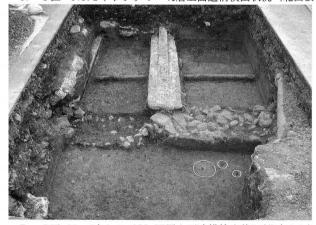


4. C区 No.1・2トレンチ着手前(南より)



5. C区 No.1トレンチV・VI層上面遺構検出状況(北西より) 6. C区 No.1トレンチ東壁断面 (西より)





7. C区 No.2トレンチV・VI層上面遺構検出状況(北東より)



8. C区 No.2トレンチ北壁断面(南より)



1. C区 No.2トレンチP1~4遺構検出状況(南西より)



2. C区 No.2トレンチP1土層断面(東より)



3. C区 No.2トレンチ完了(北より)



4. C区 No.3・4トレンチ着手前(西より)



5. C区 No.3トレンチⅡ・Ⅲ・Ⅲ層上面確認状況(北東より)



6. C区 No.3トレンチ西壁断面 (東より)

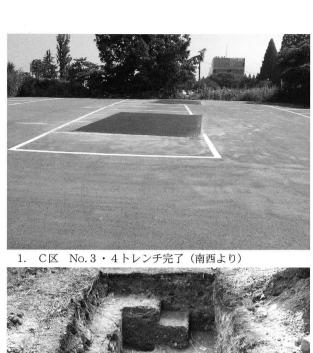


7. C区 No.4トレンチⅢ・Ⅳ・V層上面確認状況(南西より)



8. C区 No.4トレンチ西壁断面 (東より)

図版 6 C区(2)





3. C区 No.5トレンチ切・畑層上面遺構検出状況(北東より)



5. C区 No.5トレンチ完了(北東より)



7. D区 完掘状況 (東より)



2. C区 No.5トレンチ着手前(北東より)



4. C区 No.5トレンチ北壁断面(南より)

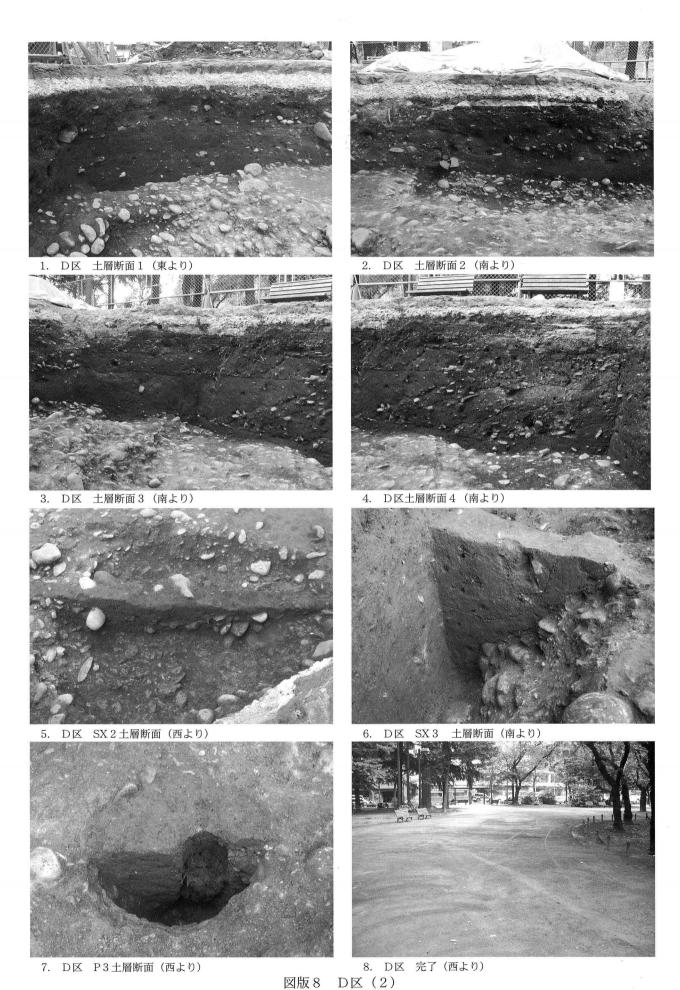


6. D区 着手前 (西より)

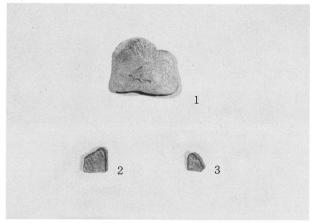


8. D区 完掘状況 (西より)

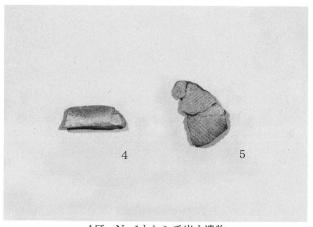
図版7 C区(3) · D区(1)



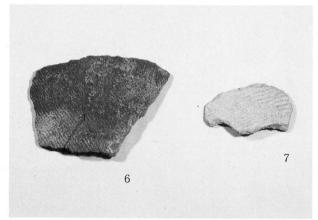
....



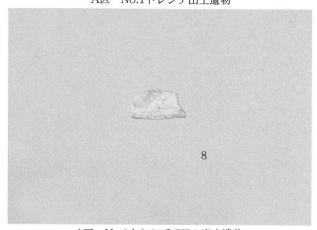
A区 No.1トレンチ SX 1 出土遺物



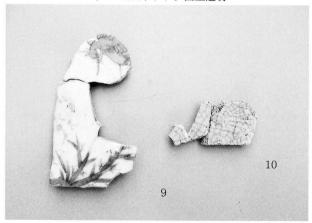
A区 No.1トレンチ出土遺物



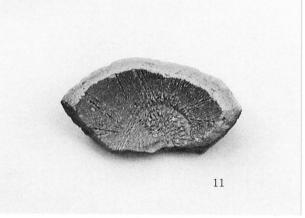
A区 No.1トレンチ出土遺物



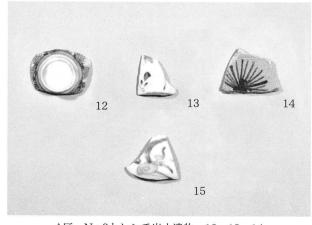
A区 No.1トレンチ SK1 出土遺物



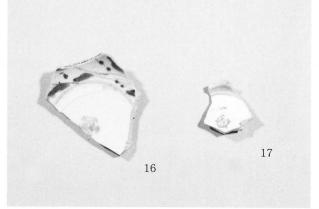
A区 No.1トレンチ出土遺物



A区 No.1トレンチ出土遺物

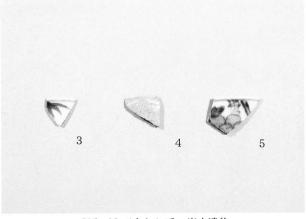


A区 No.3トレンチ出土遺物 12・13・14 A区 No.4トレンチ出土遺物 15

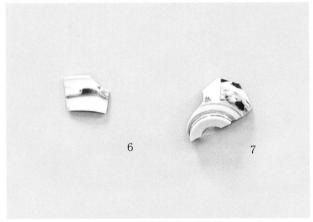


A区 No.5トレンチ SE 1 出土遺物 16 No.5トレンチ出土遺物 17

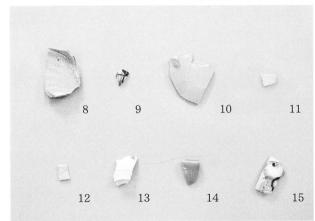




C区 No.1トレンチ 出土遺物



C区 No.5トレンチ 出土遺物



C区 No.5トレンチ 出土遺物



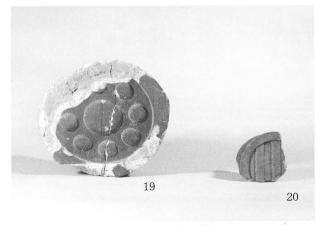
D区 SX1A 出土遺物



D区 SX1A 出土遺物



D区 SX1A 出土遺物

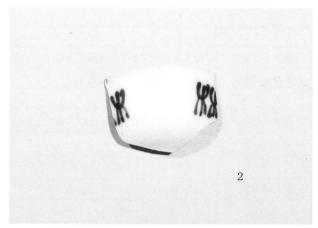


D区 SX1A 出土遺物

図版10 A区・C区・D区出土遺物



D区 SX1B 出土遺物



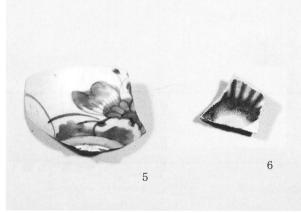
D区 SX1B 出土遺物



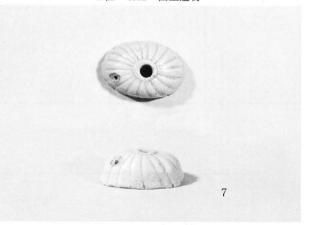
D区 SX1B 出土遺物



D区 SX2 出土遺物



D区 SX2 出土遺物



D区 SX2 出土遺物



D区 SX2 出土遺物



D区 P3 出土遺物

図版11 D区出土遺物

報告書抄録

ふりがな	せんだいしこうそくてつどうとうざいせんかんけいいせきはっくつちょうさ(1)がいようほうこくしょ												
書 名	仙台市高速鉄道東	西線関係遺	跡発掘調査((1)概要報告	告書								
シリーズ名	仙台市文化財調查	報告書											
シリーズ番号	第289集	第289集											
編集者名	斎野裕彦・澁谷正信・北原正範												
編集機関	仙台市教育委員会												
所 在 地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号 TELO22 (214) 8893~8894												
発行年月日	2005年1月	2005年1月											
ふりがな	ふりがな コード												
所収遺跡名	所在地	市区町村	遺跡番号	北緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因					
かわうちえーいせき 川内A遺跡	みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市 あおばくあおばやまちない 青葉区青葉山地内	04100	宮城県 01558	38° 15′ 37″	140° 51′ 25″	発掘調査 - 2004.6.14	448m²	仙台市高速鉄道 東西線建設に					
せんだいじょうあと 仙台城跡	みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市 おおばくかわうちちない 青葉区川内地内	04100	宮城県 01033	38° 15′ 36″	140° 50′ 54″	~2004.9.17	410111	伴う確認・試掘調査					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な	遺構	主	な遺物	特記	事 項					
かわうちえーいせき 川内A遺跡	散布地 その他の遺跡	縄文時代江戸時代	井戸・土 ピット	坑	縄文 近世 瓦	土器	平成16年7月に遺跡登録						
せんだいじょうあと 仙台城跡	城館跡	江戸時代	土坑・ピ 性格不明		近世	匈磁器							

仙台市文化財調查報告書289集

仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調查(1)概要報告書

2005年1月

発 行 仙台市教育委員会

宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号

文化財課 022 (214) 8893~8894

印 刷 佐伯印刷株式会社

本 社 大分県大分市古国府1155-1 事業部 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-26-5 代々木シティーホームズ1101号



